

学校コード F117210105417

注3

設置年度 令和 4年度
計画の区分： 大学院の設置
注1

認可

注2
公立小松大学大学院

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書

公立大学法人公立小松大学
令和4年5月1日現在

作成担当者	
担当部局（課）名	学生課
職名・氏名	センモシヨクインカンダ アツシ 専門職員 神田 淳
電話番号	0761-41-6700
（夜間）	0761-41-6700
e-mail	gakusei@komatsu-u.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

サステイナブルシステム科学研究科

＜生産システム科学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	6
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	24
7. その他全般的事項	27

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

公立大学法人公立小松大学

(2) 大学名

公立小松大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒923-8511

石川県小松市四丁町又1番地3

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イシダ ヒロト) 石田 寛人 (現職就任30年4月)		
学長	(ヤマモト ヒロシ) 山本 博 (現職就任30年4月)		
研究科長	(キムラ シゲオ) 木村 繁男 (現職就任4年4月)		
専攻長	(イワタ ヨシオ) 岩田 佳雄 (現職就任4年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)

令和4年度に報告する内容 → (4)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください(作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」を確認してください)。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和4年度までの5年間)ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
サステナブルシステム科学研究科 生産システム科学専攻 修士(工学)	工学関係	2 年	15 人	— 人	30 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 - ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 - ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」に「新規入学者を募集停止予定」を選択する
- と
と、備考に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— (—) [—]	15 (—) [—]	— (—) [—]	1.06倍	—倍								
志願者数	— (—) [—]	19 (—) [—]	— (—) [—]										
受験者数	— (—) [—]	18 (—) [—]	— (—) [—]										
合格者数	— (—) [—]	18 (—) [—]	— (—) [—]										
B 入学者数	— (—) [—]	16 (—) [—]	— (—) [—]										
入学定員超過率 B/A	—		—		—		—		1.06				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度 平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [—] (—)	16 [—] (—)	— [—] (—)								
2年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)							
3年次			/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
4年次	/						/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)
計			[—] (—)			[—] (—)	[—] (—)	[—] (—)			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
令和2年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
令和3年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
			令和3年度	— 人	— 人	
令和4年度	16 人	0 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
			令和3年度	— 人	— 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(0人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{---}}{\text{---}} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{---}}{\text{---}} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{---}}{\text{---}} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{---}}{\text{---}} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{16} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<サステイナブルシステム科学研究科 生産システム科学専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門共通科目	持続可能な社会の科学-SDGs Basic	1前	2			1						2
	データ科学概論	1前		2		2						3
	IoT・AI概論	1前		2		1	2					2
	コミュニケーション特論	1前		2								6
	アカデミック・イングリッシュ	1前		2								3
	小計(5科目)	-	2	8		4	2					13
専門応用科	持続可能な社会への展望-SDGs Advanced	1後~2前	4			7	3					17
	小計(1科目)	-	4			7	3					17
専攻専門科目	次世代エネルギーシステム特論	1後		2		2						1
	エネルギー変換特論	1前		2		2	1					
	先進材料・加工学特論	1後		2		1	1					
	次世代生産システム特論	1前		2		3						
	構造最適設計特論	1前		2		1	1					
	構造ダイナミクス特論	1後		2		3						
	計測制御システム特論	1前		2		1	1					
	電気通信制御特論	1後		2		1	1					
	アルゴリズム特論	1後		2		1						
	画像認識特論	1後		2			1					1
	小計(10科目)	-		20		11	5					1
分野横断的専攻専門科目	サステイナブル ライフ・エシックス特論	1前		2								1
	ヘルスバイオエンジニアリング特論	1前		2								4
	サステイナブル コミュニティ創造特論	1後		2								4
	多文化共生社会特論A(文化一般)	1前		2								2
	地域資源学特論A(自然・文化・社会資源:理論)	1前		2								3
	言語文化特論A(英語文化圏)	1前		2								3
	小計(6科目)	-		12								15
自由科目	ヘルスケアシステム概論	1前			2							4
	高齢者包括ケアシステム特論	1前			2							3
	生体代行システム特論	1後			2							3
	メディカル・サイバネティクス特論	1後			2							2
	多文化共生社会特論B(観光一般)	1後			2							2
	地域資源学特論B(自然・文化・社会資源:実践)	1後			2							2
	グローバルスタディーズ特論A(アジア・インド太平洋)	1前			2							1
	グローバルスタディーズ特論B(中東・旧ソ連)	1後			2							2
	言語文化特論B(漢字文化圏)	1後			2							3
	小計(9科目)	-			18							20
修了科目	修了研究	1~2通	8			12	5					1
	小計(1科目)	-	8			12	5					1
	合計(32科目)	-	14	40	18	12	5					37

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門共通科目	持続可能な社会の科学-SDGs Basic	1前	2			1						2
	データ科学概論	1前		2		2						3
	IoT・AI概論	1前		2			2					3
	コミュニケーション特論	1前		2								6
	アカデミック・イングリッシュ	1前		2								3
	小計(5科目)	-	2	8		3	2					14
専門応用科	持続可能な社会への展望-SDGs Advanced	1後~2前	4			7	3					17
	小計(1科目)	-	4			7	3					17
専攻専門科目	次世代エネルギーシステム特論	1後		2		2						1
	エネルギー変換特論	1前		2		2	1					
	先進材料・加工学特論	1後		2		1	1					
	次世代生産システム特論	1前		2		3						
	構造最適設計特論	1前		2		1	1					
	構造ダイナミクス特論	1後		2		3						
	計測制御システム特論	1前		2		1	1					
	電気通信制御特論	1後		2		1	1					
	アルゴリズム特論	1後		2			2					
	画像認識特論	1後		2			1					1
	小計(10科目)	-		20		11	5					2
分野横断的専攻専門科目	サステイナブル ライフ・エシックス特論	1前		2								1
	ヘルスバイオエンジニアリング特論	1前		2								4
	サステイナブル コミュニティ創造特論	1後		2								4
	多文化共生社会特論A(文化一般)	1前		2								2
	地域資源学特論A(自然・文化・社会資源:理論)	1前		2								3
	言語文化特論A(英語文化圏)	1前		2								3
	小計(6科目)	-		12								15
自由科目	ヘルスケアシステム概論	1前			2							4
	高齢者包括ケアシステム特論(未開講)	1前			2							2
	生体代行システム特論	1後			2							3
	メディカル・サイバネティクス特論	1後			2							2
	多文化共生社会特論B(観光一般)	1後			2							2
	地域資源学特論B(自然・文化・社会資源:実践)	1後			2							2
	グローバルスタディーズ特論A(アジア・インド太平洋)	1前			2							1
	グローバルスタディーズ特論B(中東・旧ソ連)	1後			2							2
	言語文化特論B(漢字文化圏)	1後			2							3
	小計(9科目)	-			18							19
修了科目	修了研究	1~2通	8			12	5					1
	小計(1科目)	-	8			12	5					1
	合計(32科目)	-	14	40	18	12	5					37

卒業要件及び履修方法

専門共通科目6単位以上(必修科目2単位、選択科目4単位以上)、専攻専門科目10単位以上、専門応用科目4単位、分野横断的専攻専門科目4単位以上、修了科目8単位の計32単位以上とする。
 「データ科学概論」または「IoT・AI概論」から1科目、「コミュニケーション特論」または「アカデミック・イングリッシュ」から1科目の単位取得を必要とする。
 専攻専門科目は、自専攻専門科目10単位以上と他の2専攻が開講する分野横断的専攻専門科目群から、それぞれ1科目ずつ4単位以上の履修を選択必修とする。なお、修了科目については、研究指導を受けた上で、修士論文を作成し、論文審査に合格することにより単位を認定する。
 学生が選択する研究課題によっては、以下の科目を自由科目として履修することができる。「ヘルスケアシステム概論」、「高齢者包括ケアシステム特論」、「生体代行システム特論」、「メディカル・サイバネティクス特論」、「多文化共生社会特論B(観光一般)」、「地域資源学特論B(自然・文化・社会資源:実践)」、「グローバルスタディーズ特論A(アジア・インド太平洋)」、「グローバルスタディーズ特論B(中東・旧ソ連)」、「言語文化特論B(漢字文化圏)」

卒業要件及び履修方法

専門共通科目6単位以上(必修科目2単位、選択科目4単位以上)、専攻専門科目10単位以上、専門応用科目4単位、分野横断的専攻専門科目4単位以上、修了科目8単位の計32単位以上とする。
 「データ科学概論」または「IoT・AI概論」から1科目、「コミュニケーション特論」または「アカデミック・イングリッシュ」から1科目の単位取得を必要とする。
 専攻専門科目は、自専攻専門科目10単位以上と他の2専攻が開講する分野横断的専攻専門科目群から、それぞれ1科目ずつ4単位以上の履修を選択必修とする。なお、修了科目については、研究指導を受けた上で、修士論文を作成し、論文審査に合格することにより単位を認定する。
 学生が選択する研究課題によっては、以下の科目を自由科目として履修することができる。「ヘルスケアシステム概論」、「高齢者包括ケアシステム特論」、「生体代行システム特論」、「メディカル・サイバネティクス特論」、「多文化共生社会特論B(観光一般)」、「地域資源学特論B(自然・文化・社会資源:実践)」、「グローバルスタディーズ特論A(アジア・インド太平洋)」、「グローバルスタディーズ特論B(中東・旧ソ連)」、「言語文化特論B(漢字文化圏)」

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) -②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

・専任教員の山田外史教授の就任辞退と兼任教員の山下幸三講師の就任に伴い専門共通科目「IoT・AI概論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に、兼任・兼任教員の配置を「2」から「3」に変更。
・専任教員の富澤淳教授の就任辞退と兼任教員の細川晃の就任に伴い専門応用科目「持続可能な社会への展望-SDGs Advanced」の専任教員等の配置を「教授7」から「教授6」に、兼任・兼任教員の配置を「17」から「18」に変更。
・専任教員の細川晃教授の就任に伴い専門応用科目「持続可能な社会への展望-SDGs Advanced」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授7」に、兼任・兼任教員の配置を「18」から「17」に変更。
・専任教員の富澤淳教授の就任辞退と兼任教員の細川晃の就任に伴い専攻専門科目「先進材料・加工学特論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に、兼任・兼任教員の配置を「0」から「1」に変更。
・専任教員の細川晃教授の就任に伴い専攻専門科目「先進材料・加工学特論」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に、兼任・兼任教員の配置を「1」から「0」に変更。
・専任教員の富澤淳教授の就任辞退と兼任教員の細川晃の就任に伴い専攻専門科目「次世代生産システム特論」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」に、兼任・兼任教員の配置を「0」から「1」に変更。
・専任教員の細川晃教授の就任に伴い専攻専門科目「次世代生産システム特論」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授3」に、兼任・兼任教員の配置を「0」から「1」に変更。
・専任教員の山田外史教授の就任辞退と兼任教員の山下幸三准教授の就任に伴い専攻専門科目「電気通信制御特論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に、兼任・兼任教員の配置を「0」から「1」に変更。
・専任教員の村山立人教授の就任に伴い専攻専門科目「アルゴリズム特論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更。
・専任教員の山田外史教授、富澤淳教授の就任辞退に伴い修了科目「修了研究」の専任教員等の配置を「教授12」から「教授10」に変更。
・専任教員の細川晃、村山立人教授の就任に伴い修了科目「修了研究」の専任教員等の配置を「教授10」から「教授12」に変更。
・兼任教員の中田明恵准教授の辞任に伴い、自由科目「高齢者包括ケアシステム特論」の兼任・兼任教員の配置を「3」から「2」に変更。

- (注) ・ 2(1) -① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
3 科目	20 科目	9 科目	32 科目	3 科目 []	20 科目 []	9 科目 []	32 科目 []	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{32} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考					
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 校地 末広キャンパス 借用面積：3,676㎡ 借用期間：25年 校舎 末広キャンパス 借用面積：930㎡ 借用期間：25年 中央キャンパス 借用面積：4,030㎡ 借用期間：25年 小松市ビジネス創造プラザ 借用面積：164㎡ 借用期間：1年毎に契 約更新を行う					
	校舎敷地	22,938.90 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	22,938.90 ㎡						
	運動場用地	14,271.00 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	14,271.00 ㎡						
	小 計	37,209.90 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	37,209.90 ㎡						
	そ の 他	7,951.28 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	7,951.28 ㎡						
	合 計	45,161.18 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	45,161.18 ㎡						
(2) 校 舎	専 用	17,069.95 ㎡ (17,069.95 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	17,069.95 ㎡ (17,069.95 ㎡)						
	共 用										
(3) 教 室 等	講 義 室	22室	演 習 室	8室	実験実習室	25室	情報処理学習施設	0室 (補助職員 0人)	語学学習施設	0室 (補助職員 0人)	大学全体
	(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数					
		サステイナブルシステム科学研究科 生産システム科学専攻			17		室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本				
		〔うち外国書〕	〔うち外国書〕	電子ジャーナル							
		冊	種	〔うち外国書〕				点	点	点	
サステイナブルシステム 科学研究科 生産システム科学専攻	67,000 [2,260] (66,616 [2,487])	2,514 [2,446] (2,652 [2,584])	2,435 [2,435] (2,575 [2,574])	2,010 (2,077)	850 (337)	111 (111)	大学全体				
計	67,000 [2,260] (66,616 [2,487])	2,514 [2,446] (2,652 [2,584])	2,435 [2,435] (2,575 [2,574])	2,010 (2,077)	850 (337)	111 (111)					
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体				
	909.83 ㎡		118 席		80,000 冊						
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体				
	960.00 ㎡		—								
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	研究科単位での算出不能なため、学部との合計			
		教員1人当り研究費等	600千円	600千円	図書購入費	15,002千円	15,002千円	15,002千円	図書費には電子ジャーナルデータベースの整備費(運用コストを含む)を含む。		
	共同研究費等	8,000千円	8,000千円	設備購入費	56,000千円	10,000千円	3,000千円				
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		①918 ②1,059千円	636千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	※学生納付金は ①は市内学生 ②はその他学生			
学生納付金以外の維持方法の概要		大学運営費交付金、資産運用収入、雑収入 等									

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 名称	公立小松大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
生産システム科学部	4	80	-	320	-	1.03	1.06	-	平成30	-	
生産システム科学科	4	80	-	320	学士(工学)	1.03	1.06	-	平成30	石川県小松市土居原町10-10 石川県小松市西丁町ヌ1番地3	
保健医療学部	4	80	-	320	-	1.03	1.03	-	-	-	
看護学科	4	50	-	200	学士(看護学)	1.01	1.00	-	平成30	石川県小松市土居原町10-10 石川県小松市向本折町へ14番地1	
臨床工学科	4	30	-	120	学士(臨床工学)	1.07	1.10	-	平成30	同上	
国際文化交流学部	4	80	-	320	-	1.00	1.00	-	平成30	-	
国際文化交流学科	4	80	-	320	学士(国際文化)	1.00	1.00	-	平成30	石川県小松市土居原町10-10	
大学全体	4	240	-	960	-	1.02	1.03	-	平成30	-	

大学 名称	公立小松大学大学院						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	1	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
サステイナブルシステム科学研究科											
生産システム科学専攻(修士課程)	2	15	-	30	修士(工学)	1.06	1.06	-	令和4	石川県小松市西丁町ヌ1番地3	
ヘルスケアシステム科学専攻(修士課程)	2	3	-	6	修士(保健学)	1.33	1.33	-	令和4	石川県小松市向本折町へ14番地1	
グローバル文化化学専攻(修士課程)	2	3	-	6	修士(国際文化)	1.00	1.00	-	令和4	石川県小松市土居原町10番地10	
大学院全体	2	21	-	42	-	1.09	1.09	-	令和4	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<サステイナブルシステム科学研究科 生産システム科学専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】		【令和4年度】	
専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専	岩田 佳雄 (68) <令和4年4月> 工学博士 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 構造ダイナミクス特論 ※ 修了研究	専	岩田 佳雄 (68) <令和4年4月> 工学博士 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 構造ダイナミクス特論 ※ 修了研究
専	上田 芳弘 (61) <令和4年4月> 博士(工学) データ科学概論 ※ 次世代生産システム特論 ※ 修了研究	専	上田 芳弘 (62) <令和4年4月> 博士(工学) データ科学概論 ※ 次世代生産システム特論 ※ 修了研究
専	歌野原 陽一 (47) <令和4年4月> 博士(工学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 次世代エネルギーシステム特論 ※ 修了研究	専	歌野原 陽一 (47) <令和4年4月> 博士(工学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 次世代エネルギーシステム特論 ※ 修了研究
専	香川 博之 (57) <令和4年4月> 博士(工学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 構造ダイナミクス特論 ※ 計測制御システム特論 ※ 修了研究	専	香川 博之 (57) <令和4年4月> 博士(工学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 構造ダイナミクス特論 ※ 計測制御システム特論 ※ 修了研究
専	川端 信義 (69) <令和4年4月> 工学博士 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 次世代エネルギーシステム特論 ※ 修了研究	専	川端 信義 (69) <令和4年4月> 工学博士 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 次世代エネルギーシステム特論 ※ 修了研究
専	木村 春彦 (70) <令和4年4月> 工学博士 データ科学概論 ※ 次世代生産システム特論 ※ アルゴリズム特論 ※ 修了研究	専	木村 春彦 (70) <令和4年4月> 工学博士 データ科学概論 ※ 次世代生産システム特論 ※ アルゴリズム特論 ※ 修了研究
専	酒井 忍 (58) <令和4年4月> 博士(工学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 構造最適設計特論 ※ 修了研究	専	酒井 忍 (58) <令和4年4月> 博士(工学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 構造最適設計特論 ※ 修了研究
専	藤原 晋 (50) <令和4年4月> 博士(理学) エネルギー変換特論 ※ 構造ダイナミクス特論 ※ 修了研究	専	藤原 晋 (50) <令和4年4月> 博士(理学) エネルギー変換特論 ※ 構造ダイナミクス特論 ※ 修了研究
専	高山 純一 (67) <令和4年4月> 工学博士 持続可能な社会の科学—SDGs Basic ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 修了研究	専	高山 純一 (67) <令和4年4月> 工学博士 持続可能な社会の科学—SDGs Basic ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 修了研究
専	田村 博志 (68) <令和4年4月> 理学博士 エネルギー変換特論 ※ 修了研究	専	田村 博志 (68) <令和4年4月> 理学博士 エネルギー変換特論 ※ 修了研究
専	富澤 淳 (63) <令和4年4月> 博士(工学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 先進材料・加工特論 ※ 次世代生産システム特論 ※ 修了研究	専	細川 晃 (65) <令和4年9月> 工学博士 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 先進材料・加工特論 ※ 次世代生産システム特論 ※ 修了研究
専	山田 外史 (72) <令和4年4月> 博士(工学) IoT・AI概論 ※ 電気通信制御特論 ※ 修了研究		
		専	村山 立人 (50) <令和4年9月> 博士(理学) アルゴリズム特論 ※ 修了研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	池田 慎治 (49) <令和4年4月> 博士(工学) IoT・AI概論 ※ 電気通信制御特論 ※ 修了研究	専	准教授	池田 慎治 (49) <令和4年4月> 博士(工学) IoT・AI概論 ※ 電気通信制御特論 ※ 修了研究
専	准教授	梶原 祐輔 (36) <令和4年4月> 博士(工学) IoT・AI概論 ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 画像認識特論 ※ 修了研究	専	准教授	梶原 祐輔 (36) <令和4年4月> 博士(工学) IoT・AI概論 ※ 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※ 画像認識特論 ※ 修了研究
専	准教授	粕谷 素洋 (43) <令和4年4月> 博士(理学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ エネルギー変換特論 ※ 先進材料・加工学特論 ※ 修了研究	専	准教授	粕谷 素洋 (43) <令和4年4月> 博士(理学) 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※ エネルギー変換特論 ※ 先進材料・加工学特論 ※ 修了研究
専	准教授	史 金星 (41) <令和4年4月> 博士(工学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 構造最適設計特論 ※ 修了研究	専	准教授	史 金星 (41) <令和4年4月> 博士(工学) 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※ 構造最適設計特論 ※ 修了研究
専	准教授	定津 正利 (51) <令和4年4月> 博士(工学) 計測制御システム特論 ※ 修了研究	専	准教授	定津 正利 (51) <令和4年4月> 博士(工学) 計測制御システム特論 ※ 修了研究
兼任	教授	李 鍾昊 (48) <令和4年4月> 博士(学術) IoT・AI概論 ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※	兼任	教授	李 鍾昊 (48) <令和4年4月> 博士(学術) IoT・AI概論 ※ 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※
兼任	教授	内田 美保 (63) <令和4年4月> 博士(感染制御学) サステナブル コミュニティ創造 特論 ※			
兼任	教授	北浦 弘樹 (48) <令和4年4月> 博士(医学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※	兼任	教授	北浦 弘樹 (48) <令和4年4月> 博士(医学) 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※
兼任	教授	北岡 和代 (68) <令和4年4月> 博士(医学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※	兼任	教授	北岡 和代 (68) <令和4年4月> 博士(医学) 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※
兼任	教授	高木 祐介 (38) <令和5年4月> 博士(健康科学) サステナブル コミュニティ創造 特論 ※	兼任	教授	高木 祐介 (37) <令和5年4月> 博士(健康科学) サステナブル コミュニティ 創造特論 ※
兼任	教授	仲田 浩規 (41) <令和4年4月> 博士(医学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ サステナブル コミュニティ創造 特論 ※	兼任	教授	仲田 浩規 (41) <令和4年4月> 博士(医学) 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※ サステナブル コミュニティ 創造特論 ※
兼任	教授	橋本 泰成 (38) <令和4年4月> 博士(工学) データ科学概論 ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※	兼任	教授	橋本 泰成 (38) <令和4年4月> 博士(工学) データ科学概論 ※ 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※
兼任	教授	八賀 正司 (68) <令和4年4月> 学術博士 ヘルスバイオエンジニアリング特 論 ※	兼任	教授	八賀 正司 (68) <令和4年4月> 学術博士 ヘルスバイオエンジニアリン グ特論 ※
兼任	教授	山岡 裕久 (53) <令和5年4月> 博士(医学) ヘルスバイオエンジニアリング特 論 ※	兼任	教授	山岡 裕久 (52) <令和5年4月> 博士(医学) ヘルスバイオエンジニアリン グ特論 ※
兼任	教授	平山 順 (46) <令和4年4月> 博士(人間・環境学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※	兼任	教授	平山 順 (46) <令和4年4月> 博士(人間・環境学) 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	松井 優子 (56) <令和4年4月> 博士(保健学)	兼任	教授	松井 優子 (56) <令和4年4月> 博士(保健学)
		ヘルスバイオエンジニアリング特論 ※			ヘルスバイオエンジニアリング特論 ※
兼任	教授	盛永 審一郎 (73) <令和4年4月> 文学修士	兼任	教授	盛永 審一郎 (73) <令和4年4月> 文学修士
		持続可能な社会の科学-SDGs Basic ※ サステイナブル ライフ・エシックス特論			持続可能な社会の科学-SDGs Basic ※ サステイナブル ライフ・エシックス特論
兼任	准教授	佐藤 大介 (42) <令和4年4月> 博士(看護学)			
		データ科学概論 ※ サステイナブル コミュニティ創造特論 ※			
兼任	准教授	藤田 一寿 (43) <令和4年4月> 博士(工学)	兼任	准教授	藤田 一寿 (44) <令和4年4月> 博士(工学)
		IoT・AI概論 ※ 持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※ ヘルスバイオエンジニアリング特論 ※			IoT・AI概論 ※ 持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※ ヘルスバイオエンジニアリング特論 ※
兼任	助教	上田 映美 (38) <令和4年4月> 博士(保健学)	兼任	助教	上田 映美 (38) <令和4年4月> 博士(保健学)
		ヘルスバイオエンジニアリング特論 ※			ヘルスバイオエンジニアリング特論 ※
兼任	教授	岡村 徹 (60) <令和4年4月> 博士(比較社会文化)	兼任	教授	岡村 徹 (60) <令和4年4月> 博士(比較社会文化)
		持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※ 言語文化特論A(英語文化圏) ※			持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※ 言語文化特論A(英語文化圏) ※
兼任	教授	小原 文衛 (53) <令和4年4月> 博士(文学)	兼任	教授	小原 文衛 (53) <令和4年4月> 博士(文学)
		コミュニケーション特論 ※ アカデミック・イングリッシュ ※ 言語文化特論A(英語文化圏) ※			コミュニケーション特論 ※ アカデミック・イングリッシュ ※ 言語文化特論A(英語文化圏) ※
兼任	教授	杓谷 茂樹 (59) <令和4年4月> 修士(文学)	兼任	教授	杓谷 茂樹 (59) <令和4年4月> 修士(文学)
		持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※ 多文化共生社会特論A(文化一般) ※ 地域資源学特論A(自然・文化・社会資源:理論) ※			持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※ 多文化共生社会特論A(文化一般) ※ 地域資源学特論A(自然・文化・社会資源:理論) ※
兼任	教授	中村 誠一 (65) <令和5年4月> 修士(文化科学)	兼任	教授	中村 誠一 (64) <令和5年4月> 修士(文化科学)
		持続可能な社会の科学-SDGs Basic ※ 持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※ 修了研究			持続可能な社会の科学-SDGs Basic ※ 持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※ 修了研究
兼任	教授	西村 聡 (67) <令和4年4月> 博士(文学)	兼任	教授	西村 聡 (67) <令和4年4月> 博士(文学)
		地域資源学特論A(自然・文化・社会資源:理論) ※			地域資源学特論A(自然・文化・社会資源:理論) ※
兼任	教授	刘 遵华 (59) <令和4年4月> 文学修士	兼任	教授	刘 遵华 (59) <令和4年4月> 文学修士
		コミュニケーション特論 ※			コミュニケーション特論 ※
兼任	准教授	朝倉 由希 (45) <令和4年4月> 博士(学術)	兼任	准教授	朝倉 由希 (45) <令和4年4月> 博士(学術)
		持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※			持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※
兼任	准教授	一ノ瀬 忠之 (47) <令和4年4月> 博士(商学)	兼任	准教授	一ノ瀬 忠之 (47) <令和4年4月> 博士(商学)
		持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※			持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※
兼任	准教授	木塚 紗綾 (41) <令和4年4月> 博士(政治学)	兼任	講師	西島 嘉 (34) <令和4年6月> 博士(地域研究)
		持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※			持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※
兼任	准教授	木村 誠 (41) <令和4年4月> 博士(学術)	兼任	准教授	木村 誠 (42) <令和4年4月> 博士(学術)
		コミュニケーション特論 ※ 持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※			コミュニケーション特論 ※ 持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	准教授	清 剛治 (51) <令和4年4月> 博士(学術) コミュニケーション特論 ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 多文化共生社会特論A(文化一般) ※ 地域資源学特論A(自然・文化・社会資源:理論) ※	兼任	准教授	清 剛治 (51) <令和4年4月> 博士(学術) コミュニケーション特論 ※ 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※ 多文化共生社会特論A(文化一 般) ※ 地域資源学特論A(自然・文化・社 会資源:理論) ※
兼任	准教授	島内 俊彦 (52) <令和4年4月> 博士(学術) データ科学概論 ※ コミュニケーション特論 ※ アカデミック・イングリッシュ ※	兼任	准教授	島内 俊彦 (52) <令和4年4月> 博士(学術) データ科学概論 ※ コミュニケーション特論 ※ アカデミック・イングリッシュ ※
兼任	准教授	千葉 悠志 (36) <令和4年4月> 博士(地域研究) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※	兼任	准教授	千葉 悠志 (37) <令和4年4月> 博士(地域研究) 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※
兼任	准教授	中子(佐藤) 富貴子 (54) <令和4年4月> 博士(創造都市) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※	兼任	准教授	中子(佐藤) 富貴子 (54) <令和4年4月> 博士(創造都市) 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※
兼任	准教授	長辻(石黒) 幸 (38) <令和4年4月> 博士(文学) アカデミック・イングリッシュ ※ 言語文化特論A(英語文化圏) ※	兼任	准教授	長辻(石黒) 幸 (39) <令和4年4月> 博士(文学) アカデミック・イングリッ シュ ※ 言語文化特論A(英語文化圏) ※
兼任	准教授	橋本(佐治) 貴子 (45) <令和4年4月> 博士(文学) コミュニケーション特論 ※	兼任	准教授	橋本(佐治) 貴子 (45) <令和4年4月> 博士(文学) コミュニケーション特論 ※
兼任	講師	木村 繁男 (71) <令和4年4月> Doctor of Philosophy, Mechanical Engineering (米園) 次世代エネルギーシステム特論 ※	兼任	教授	木村 繁男 (71) <令和4年4月> Doctor of Philosophy, Mechanical Engineering (米園) 次世代エネルギーシステム特 論 ※
			兼任	准教授	山下 幸三 (39) <令和4年4月> 博士(工学) IoT・AI概論 ※ 電気通信特論 ※
			兼任	講師	内田 美保 (63) <令和4年4月> 博士(建築学) サステイナブル コミュニティ 創造特論 ※
			兼任	講師	佐藤 大介 (42) <令和4年4月> 博士(情報学) データ科学概論 ※ サステイナブル コミュニティ 創造特論 ※

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(み))、兼任、兼任の順に記入してください。
 ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和4年度】

(記入例)

- ・専任教員の富澤淳教授就任辞退。
- ・専任教員の山田外史教授就任辞退。
- ・兼任教員の内田美保教授就任辞退。
- ・兼任教員の佐藤大介准教授就任辞退。
- ・兼任教員の木場紗綾准教授就任辞退。
- ・兼任教員として山下幸三准教授を追加し、担当科目として専門共通科目「IoT・AI概論」、専攻専門科目「電気通信制御特論」を追加。
- ・専任教員として細川晃教授を追加し、担当科目として専門応用科目「持続可能な社会への展望-SDGs Advanced」、専攻専門科目「先進材料・加工学特論」「次世代生産システム特論」、修了科目「修了研究」を追加。(令和4年6月教員審査済)
- ・専任教員として村山立人教授を追加し、担当科目として専攻専門科目「アルゴリズム特論」、修了科目「修了研究」を追加。(令和4年6月教員審査済)
- ・兼任教員として内田美保講師を追加し、担当科目として分野横断的専攻専門科目「サステイナブル コミュニティ創造特論」を追加。
- ・兼任教員として佐藤大介講師を追加し、担当科目として専門共通科目「データ科学概論」、分野横断的専攻専門科目「サステイナブル コミュニティ創造特論」を追加。
- ・兼任教員として西島薫講師を追加し、担当科目として専門応用科目「持続可能な社会への展望-SDGs Advanced」を追加。(令和4年4月教員審査済)

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
4 名	3 名	3 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計（A）	助手（A'）	教授	准教授	講師	助教	計（B）	助手（B'）
12	5	0	0	17	0	12	5	0	0	17	0
(12)	(5)	(0)	(0)	(17)	(0)						
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		
17	0	0				17	0	0			
(17)	(0)	(0)				(17)	(0)	(0)			
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計（C）	助手（C'）	教授	准教授	講師	助教	計（D）	助手（D'）
12	5	0	0	17	0	12	5	0	0	17	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		
17	0	0				17	0	0			
[0]	[0]	[0]				[0]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、既に設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	6 名	6 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) -④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{17}{17} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{6}{17} = \boxed{35.29} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	教授	富澤 淳	R4.3	必修	持続可能な社会への展望—SDGs Advanced	①	R4.3自己都合のため就任辞退（4）			
				選択	先進材料・加工学特論	①				
				選択	次世代生産システム特論	①				
				必修	修了研究	①				
2	教授	山田 外史	R4.3	選択	IoT・AI概論	②	R4.3自己都合のため就任辞退（4）			
				選択	電気通信制御特論	②				
				必修	修了研究	①				
合計（D）					後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
2	人	必修	3	科目	必修	3	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	2	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	7	科目	計	5	科目	計	2	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼任教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計（F）					後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼任教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計(D) + (F)			後任補充状況の集計(E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
2 人	必修	3 科目	必修	3 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	4 科目	選択	2 科目	選択	2 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	7 科目	計	5 科目	計	2 科目	計	0 科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{2}{17} = \boxed{11.76} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員就任辞退による科目担当者変更については、授業担当能力を満たしている兼任教員で対応出来ており、学生の履修等への影響は無いものとする。学生への周知については時間割および専攻ガイダンスによって行った。後任については、候補者選を速やかに行っており、令和4年度のAC教員審査に申請中若しくは今後提出する予定である。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区分	附帯事項等		履行状況		今後の実施計画
<p>認可時 (令和4年)</p>	<p>1. 設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の理論及び応用を教授研究するという大学院の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・理事長・学長・研究科長のトップマネジメントのもとに、設置計画を確実に履行し、的確な大学院運営を行っている。</p> <p>・既設の全学委員会である教育企画委員会、研究・社会連携委員会と連携しつつ、大学院研究科委員会の指揮下に充実した教育研究活動の推進とその水準の向上に努めている。</p> <p>(令和4年度)</p>	<p>履行中</p>	<p>・大学の各組織が行う活動が設置の趣旨・目的を踏まえた取り組みとなっているかを、学長を室長とする評価室によって、半期ごとに実施する進捗管理で検証し、計画を確実に履行していく。</p> <p>(令和4年度)</p>
<p>認可時 (令和4年)</p>	<p>2. 本研究科で実施可能な分野横断的研究に係る理解が十分に得られるよう、分野横断の具体例やそれに応じた履修モデル等を交えながら、入学志願者等に対しあらかじめ周知するとともに、入学後のオリエンテーションやガイダンスにおいても学生に対して具体的に説明すること。また、他専攻の教育アドバイザー教員が専門分野を超えた課題研究に関してどのような指導・助言を行うのかについても併せて具体的に説明すること。さらに、設置の趣旨等に係る説明に「修了研究では・・・専門分野を超えた共同研究を促す。」とあるが、「修了研究」のシラバスを見る限り、必ずしも全ての研究テーマにおいて共同研究が想定されているとは見受けられないため、前述の周知及び説明に当たっては、分野横断が想定される研究テーマについて誤解が生じないように正確に説明すること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・志願者には分野横断的研究の主旨と重要性を入学説明会等で事前に説明している。また、研究科オリエンテーションと各専攻毎のガイダンスにおいても再度説明するとともに、主任指導教員、副指導教員、およびアドバイザー教員の具体的役割等についても詳しく説明している。</p> <p>・修了研究における共同研究については、それぞれの研究テーマに則して相応しいものとそうでないもの、さらに共同研究が全般にわたるのかあるいは部分的とするのかを整理して説明している。</p> <p>(令和4年度)</p>	<p>履行中</p>	<p>・各学生の履修状況及び修了研究の進捗状況を踏まえて、主任指導教員、副指導教員及びアドバイザー教員が適切な助言を行っている。</p> <p>(令和4年度)</p>

<p>認可時 (令和4年)</p>	<p>3. 分野横断的専攻専門科目については、他専攻が開講する科目の履修を通じて、学生自らの専攻及び分野を越えた専門的な内容を学ぶものであることから、他専攻の学生が当該科目の履修に当たって支障が生じないよう、学生に求める事前学修や大学が講じる学修支援の内容等をシラバスに明記した上で適切に実施すること。また、学生が自らの研究内容にふさわしい分野横断的専攻専門科目を選択することができるよう、オリエンテーションやガイダンスに加えて、指導教員等による綿密な履修指導に努めること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・分野横断的専攻専門科目のシラバスには、他専攻の学生に対して事前の学修支援を行う旨明記している。</p> <p>・科目選択に当たっては当該学生の修了研究のテーマに相応しいか、主任指導教員、副指導教員、アドバイザー教員が協議して履修指導を行っている。</p> <p>(令和4年度)</p>	<p>履行中</p>	<p>・学生の理解度を随時検証し、事前の学習支援の方法・内容を改善していく。</p> <p>(令和4年度)</p>
<p>認可時 (令和4年)</p>	<p>4. 本研究科のカリキュラム・ポリシーにおいて、「ケーススタディ、フィールドワーク、インターンシップなどのアプローチを修了研究に含め」ることとしているが、「修了研究」のシラバスを見る限り、必ずしも全ての研究テーマにおいて当該アプローチが含まれているとは見受けられないため、当該ポリシーと教育課程が整合していることが明確になるようシラバスの記載を適切に改めること。また、その実施に当たっては、あらかじめ大学として適切に学生をフォローする体制を整備するとともに、学修負担を考慮した上で、学生のニーズや研究テーマに応じ、実施時期や取組内容等について柔軟に対応すること。さらに、海外におけるフィールドワークも予定されており、相応の経済的な負担が懸念されることから、学生に対してあらかじめ適切に周知すること。なお、必要に応じて学生に対する経済的支援等の負担軽減策を講じることが望ましい。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・「ケーススタディ、フィールドワーク、インターンシップなど」を修了研究に含めることについては、カリキュラムポリシーと教育課程の整合性を図るため、シラバスを適切に改めた。また、その実施時期は学生の負担が偏重しないよう柔軟に設定する。</p> <p>・海外におけるフィールドワークについては、既に学部生に対して実施している経費支援制度を適用し、大学院学生の負担軽減を図る。</p> <p>(令和4年度)</p>	<p>履行中</p>	<p>・修了研究に関連するインターンシップ、ケーススタディ、フィールドワークの実施状況を調査し、研究テーマにおける当該アプローチの効果を評価し、実施方法・内容を改善していく。</p> <p>(令和4年度)</p>

<p>認可時 (令和4年)</p>	<p>5. 専門共通科目の「データ科学概論」及び「IoT・AI概論」について、その履修者が、当該科目に含まれる専門性の高い内容に対する十分な理解が得られるよう、必要に応じて本学学士課程の共通教育科目（「データ科学と社会」及び「情報処理基礎」）のオンデマンド教材を用いた予習に加えて、上記の専門共通科目で取り扱う専門的内容に応じた事前教育を適切に行い、当該科目の教育効果を確実に担保すること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・基礎となる情報系科目を履修していない学生には、本学学士課程の共通教育科目「データ科学と社会」及び「情報処理基礎」の担当教員が作成したオンデマンド教材を活用する等により事前教育を行ない、教育効果を担保している。</p> <p>(令和4年度)</p>	<p>履行中</p>	<p>・学生の理解度を随時検証し、学士課程の科目以外にも必要な事前教育を行っていく。</p> <p>(令和4年度)</p>
<p>認可時 (令和4年)</p>	<p>7. 二以上の校地において教育を行うことから、学生及び教員の教育研究等に支障のないよう留意すること。また、学生の課外活動等にも配慮すること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・授業及び課外活動の時間に合わせてキャンパス間のシャトルバスを運行し、学生、教員の移動の負担を軽減している。</p> <p>・対面授業での受講が困難な履修生については、遠隔授業やオンデマンドによる補習を実施している。</p> <p>(令和4年度)</p>	<p>履行中</p>	<p>・引き続きシャトルバスの運行と遠隔及びオンデマンド形式による授業を実施していく。</p> <p>(令和4年度)</p>
<p>認可時 (令和4年)</p>	<p>8. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。（サステイナブルシステム科学研究科生産システム科学専攻(M)）</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・着実な教育研究体制を早期に確立するために定年年齢を超える教員を複数配置しているが、就業規則に規定しているとおり経過措置であり、完成年度以降は順次適正な年齢構成となる計画である。</p> <p>(令和4年度)</p>	<p>履行中</p>	<p>・経過措置を終えた後、着実に適正な年齢構成を達成する。</p> <p>(令和4年度)</p>

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<サステイナブルシステム科学研究科 生産システム科学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

公立小松大学FD・SD推進委員会規則を制定（平成30年4月）

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

令和4年度未開催（開催予定）

c 委員会の審議事項等

FD・SDの推進計画の策定、実施に関すること

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 財務システム研修会（令和4年5月開催予定）
- ・ 公立大学の役割を学ぶ研修会
- ・ 入試の全国的な動向や高校生の傾向を学ぶ研修会
- ・ 研究倫理研修会（e-ラーニング）（JSPSで実施中）
- ・ 新任事務職員のための研修会
- ・ 大学コンソーシアム主催 オンライン研修会（令和4年度開催予定）
- ・ 公立大学協会配信オンライン研修
「公立大学の研究活動促進に資するための勉強会（第1回）」（令和4年5月開催予定）
「公立大学の研究活動促進に資するための勉強会（第2回）」（令和4年6月開催予定）
- ・ 公立大学職員セミナー（令和4年度開催予定）
- ・ 公立大学法人会計セミナー（令和4年度開催予定）

b 実施方法

- ・ 開学後早急にFD・SD活動を開始するため、理事長・学長の指導のもと、各委員会等が研修会を企画した。全学における実施結果は、公立小松大学FD・SD推進委員会がとりまとめ総括した。大学院設置後も同様に実施する予定である。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 今後、実施内容に記載した研修会等の開催を予定している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 授業評価アンケートに基づき、学部学科単位で改善を実施（研究科においても実施予定）
- ・ プレゼンテーション能力やアクティブラーニング等の研修実施に向けた準備を実施中

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

未実施。令和4年度前期、後期開講科目終了時に、授業評価アンケートを実施を予定。

b 教員や学生への公開状況、方法等

専攻ごとに集計を行い研究科全体で内容を共有することを予定している。また、学生に対しては、学内掲示板等により結果を公表することを予定している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

地方独立行政法人法の規定も踏まえ、自己点検・評価委員会を設置し、理事長・学長のトップマネジメントによる法人・大学の運営が行われる仕組みを構築した。大学の各組織は、年に2度理事長・学長によるヒアリングを受けることとなっており、目標や方針の確認及び進捗状況の点検確認を行っている。

職員の資質や意識の更なる向上を図りつつ、設置の趣旨・目的に達成に向け組織全体が一丸となって取り組んでいく環境を引き続き整えていきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和4年6月 公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定（令和4年6月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・学内で検討を行っている。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

学校コード F117210105417

注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 大学院の設置

注1

認可

注2

公立小松大学大学院

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書

公立大学法人公立小松大学
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	学生課
職名・氏名	センモシヨクインカンダ アツシ 専門職員 神田 淳
電話番号	0761-41-6700
（夜間）	0761-41-6700
e-mail	gakusei@komatsu-u.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
 - 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
 - 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
 - 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
 - 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
 - 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
 - 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
 - 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.next.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

サステイナブルシステム科学研究科

＜ヘルスケアシステム科学専攻＞

ページ

1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	6
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	24
7. その他全般的事項	27

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

公立大学法人公立小松大学

(2) 大学名 公立小松大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒923-0961
石川県小松市向本折町へ14番地1
(〒923-8511)
(石川県小松市四丁町又1番地3)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イシダ ヒロト) 石田 寛人 (現職就任30年4月)		
学長	(ヤマモト ヒロシ) 山本 博 (現職就任30年4月)		
研究科長	(キムラ シゲオ) 木村 繁男 (現職就任4年4月)		
専攻長代行	(ヒラヤマ ジュン) 平山 順 (現職就任4年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)
令和4年度に報告する内容 → (4)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください(作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」を確認してください)。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和4年度までの5年間)ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
サステイナブルシステム科学研究科 ヘルスケアシステム科学専攻 修士(保健学)	保健衛生学関係(看護学関係) 保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	2 年	3 人	— 年次 人	6 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」に「新規入学者を募集停止予定」を選択する

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— (—) [—]	3人 (—) [—]	— (—) [—]	1.33倍	—倍								
志願者数	— (—) [—]	4 (—) [—]	— (—) [—]										
受験者数	— (—) [—]	4 (—) [—]	— (—) [—]										
合格者数	— (—) [—]	4 (—) [—]	— (—) [—]										
B 入学者数	— (—) [—]	4 (—) [—]	— (—) [—]										
入学定員超過率 B/A	—		—		—		—		1.33				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度 平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期									
1年次	— [—] (—)	4 [—] (—)	— [—] (—)								
2年次	/		— [—] (—)								
3年次			/		— [—] (—)						
4年次	/				— [—] (—)						
計			[—] (—)	4 [—] (—)	[—] (—)						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
令和2年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
令和3年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
			令和3年度	— 人	— 人	
令和4年度	4 人	0 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
			令和3年度	— 人	— 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(0人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{---}}{\text{---}} = \boxed{\text{\#VALUE!}} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{---}}{\text{---}} = \boxed{\text{\#VALUE!}} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{---}}{\text{---}} = \boxed{\text{\#VALUE!}} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{---}}{\text{---}} = \boxed{\text{\#VALUE!}} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{4} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<サステイナブルシステム科学研究科 ヘルスケアシステム科学専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門共通科目	持続可能な社会の科学-SDGs Basic	1前	2			1						2
	データ科学概論	1前		2		1	1					3
	IoT・AI概論	1前		2		1	1					3
	コミュニケーション特論	1前		2								6
	アカデミック・イングリッシュ	1前		2								3
	小計(5科目)	-	2	8	0	3	2	0	0	0	0	14
専門応用科	持続可能な社会への展望-SDGs Advanced	1後~2前	4			6	1					20
	小計(1科目)	-	4	0	0	6	1	0	0	0	0	20
専攻専門科目	ヘルスケアシステム概論	1前	2			4						
	サステイナブル ライフ・エシックス特論	1前	2			1						
	高齢者包括ケアシステム特論	1前		2		2	1					
	ヘルスバイオエンジニアリング特論	1前		2		2	1		1			
	生体代行システム特論	1後		2		2	1					
	メディカル・サイバネティクス特論	1後		2		2						
	サステイナブル コミュニティ創造特論	1後		2		3	1					
	小計(7科目)	-	4	10	0	15	4	0	1	0	0	
分野横断的専攻専門科目	次世代エネルギーシステム特論	1後		2								3
	アルゴリズム特論	1後		2								1
	画像認識特論	1後		2								1
	多文化共生社会特論A(文化一般)	1前		2								2
	地域資源学特論A(自然・文化・社会資源:理論)	1前		2								3
	言語文化特論A(英語文化圏)	1前		2								3
		小計(6科目)	-	0	12	0	0	0	0	0	0	0
自由科目	エネルギー変換特論	1前			2							3
	先進材料・加工学特論	1後			2							2
	次世代生産システム特論	1前			2							3
	構造最適設計特論	1前			2							2
	構造ダイナミクス特論	1後			2							3
	計測制御システム特論	1前			2							2
	電気通信制御特論	1後			2							2
	多文化共生社会特論B(観光一般)	1後			2							2
	地域資源学特論B(自然・文化・社会資源:実践)	1後			2							2
	グローバルスタディーズ特論A(アジア・インド太平洋)	1前			2							1
	グローバルスタディーズ特論B(中東・旧ソ連)	1後			2							2
	言語文化特論B(漢字文化圏)	1後			2							3
	小計(12科目)	-	0	0	24	0	0	0	0	0	0	21
修了科目	修了研究	1~2通	8			12	3					1
	小計(1科目)	-	8	0	0	12	3	0	0	0	0	1
	合計(32科目)	-	18	30	24	15	4	0	1	0	0	34

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門共通科目	持続可能な社会の科学-SDGs Basic	1前	2			1						2
	データ科学概論	1前		2		1						4
	IoT・AI概論	1前		2		1	1					3
	コミュニケーション特論	1前		2								6
	アカデミック・イングリッシュ	1前		2								3
	小計(5科目)	-	2	8	0	3	1	0	0	0	0	15
専門応用科	持続可能な社会への展望-SDGs Advanced	1後~2前	4			6	1					20
	小計(1科目)	-	4	0	0	6	1	0	0	0	0	20
専攻専門科目	ヘルスケアシステム概論	1前	2					3				1
	サステイナブル ライフ・エシックス特論	1前		2		1						
	高齢者包括ケアシステム特論(未開講)	1前		2		2						
	ヘルスバイオエンジニアリング特論	1前		2		2	1		1			
	生体代行システム特論	1後		2		2	1					
	メディカル・サイバネティクス特論	1後		2		2						
	サステイナブル コミュニティ創造特論	1後		2				2				2
	小計(7科目)	-	4	10	0	14	2	0	1	0	0	3
分野横断的専攻専門科目	次世代エネルギーシステム特論	1後		2								3
	アルゴリズム特論	1後		2								2
	画像認識特論	1後		2								1
	多文化共生社会特論A(文化一般)	1前		2								2
	地域資源学特論A(自然・文化・社会資源:理論)	1前		2								3
	言語文化特論A(英語文化圏)	1前		2								3
		小計(6科目)	-	0	12	0	0	0	0	0	0	0
自由科目	エネルギー変換特論	1前			2							3
	先進材料・加工学特論	1後			2							2
	次世代生産システム特論	1前			2							3
	構造最適設計特論	1前			2							2
	構造ダイナミクス特論	1後			2							3
	計測制御システム特論	1前			2							2
	電気通信制御特論	1後			2							2
	多文化共生社会特論B(観光一般)	1後			2							2
	地域資源学特論B(自然・文化・社会資源:実践)	1後			2							2
	グローバルスタディーズ特論A(アジア・インド太平洋)	1前			2							1
	グローバルスタディーズ特論B(中東・旧ソ連)	1後			2							2
	言語文化特論B(漢字文化圏)	1後			2							3
	小計(12科目)	-	0	0	24	0	0	0	0	0	0	21
修了科目	修了研究	1~2通	8			12	2					1
	小計(1科目)	-	8	0	0	12	2	0	0	0	0	1
	合計(32科目)	-	18	30	24	14	2	0	1	0	0	38

卒業要件及び履修方法

専門共通科目6単位以上(必修科目2単位、選択科目4単位以上)、専攻専門科目10単位以上、専門応用科目4単位、分野横断的専攻専門科目4単位以上、修了科目8単位の計32単位以上とする。
 「データ科学概論」または「IoT・AI概論」から1科目、「コミュニケーション特論」または「アカデミック・イングリッシュ」から1科目の単位取得を必要とする。
 専攻専門科目は、自専攻専門科目10単位以上と他の2専攻が開講する分野横断的専攻専門科目群から、それぞれ1科目ずつ4単位以上の履修を選択必修とする。
 なお、修了科目については、研究指導を受けた上で、修士論文を作成し、論文審査に合格することにより単位を認定する。
 学生が選択する研究課題によっては、以下の科目を自由科目として履修することができる。「エネルギー変換特論」、「先進材料・加工学特論」、「次世代生産システム特論」、「構造最適設計特論」、「構造ダイナミクス特論」、「計測制御システム特論」、「電気通信制御特論」、「多文化共生社会特論B(観光一般)」、「地域資源学特論B(自然・文化・社会資源:実践)」、「グローバルスタディーズ特論A(アジア・インド太平洋)」、「グローバルスタディーズ特論B(中東・旧ソ連)」、「言語文化特論B(漢字文化圏)」

卒業要件及び履修方法

専門共通科目6単位以上(必修科目2単位、選択科目4単位以上)、専攻専門科目10単位以上、専門応用科目4単位、分野横断的専攻専門科目4単位以上、修了科目8単位の計32単位以上とする。
 「データ科学概論」または「IoT・AI概論」から1科目、「コミュニケーション特論」または「アカデミック・イングリッシュ」から1科目の単位取得を必要とする。
 専攻専門科目は、自専攻専門科目10単位以上と他の2専攻が開講する分野横断的専攻専門科目群から、それぞれ1科目ずつ4単位以上の履修を選択必修とする。
 なお、修了科目については、研究指導を受けた上で、修士論文を作成し、論文審査に合格することにより単位を認定する。
 学生が選択する研究課題によっては、以下の科目を自由科目として履修することができる。「エネルギー変換特論」、「先進材料・加工学特論」、「次世代生産システム特論」、「構造最適設計特論」、「構造ダイナミクス特論」、「計測制御システム特論」、「電気通信制御特論」、「多文化共生社会特論B(観光一般)」、「地域資源学特論B(自然・文化・社会資源:実践)」、「グローバルスタディーズ特論A(アジア・インド太平洋)」、「グローバルスタディーズ特論B(中東・旧ソ連)」、「言語文化特論B(漢字文化圏)」

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

・専任教員の佐藤大介准教授の就任辞退と兼任教員の佐藤大介講師の就任に伴い専門共通科目「データ科学概論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に、兼任・兼任教員の配置を「3」から「4」に変更。

・専任教員の山崎松美教授の就任辞退と専任教員の山本博教授の就任及び令和4年度において翌年度より専任教員となる高木祐介教授が兼任教員として授業を担当することに伴い専攻専門科目「ヘルスケアシステム概論」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授3」に、兼任・兼任教員の配置を「0」から「1」に変更。

・専任教員の内田美保教授、佐藤大介准教授の就任辞退と兼任教員の内田美保講師、佐藤大介講師の就任に伴い専門共通科目「サステイナブル コミュニティ創造特論」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」「准教授1」から「准教授0」に、兼任・兼任教員の配置を「0」から「2」に変更。

・専任教員の中田明恵准教授の辞任に伴い、専攻専門科目「高齢者包括ケアシステム特論」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に、修了科目「修了研究」の専任教員等の配置を「准教授3」から「准教授2」に変更。

・兼任教員の村山立人教授の就任に伴い、分野横断的専攻専門科目「アルゴリズム特論」の兼任・兼任教員の配置を「1」から「2」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
5 科目	15 科目	12 科目	32 科目	5 科目 []	15 科目 []	12 科目 []	32 科目 []	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{32} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
	校舎敷地	22,938.90 m ²	0 m ²	0 m ²	22,938.90 m ²	校地 末広キャンパス 借用面積：3,676m ² 借用期間：25年			
	運動場用地	14,271.00 m ²	0 m ²	0 m ²	14,271.00 m ²				
	小 計	37,209.90 m ²	0 m ²	0 m ²	37,209.90 m ²	校舎 末広キャンパス 借用面積：930m ² 借用期間：25年 中央キャンパス 借用面積：4,030m ² 借用期間：25年 小松市ビジネス創造プラ ザ 借用面積：164m ² 借用期間：1年毎に契 約更新を行う			
	そ の 他	7,951.28 m ²	0 m ²	0 m ²	7,951.28 m ²				
	合 計	45,161.18 m ²	0 m ²	0 m ²	45,161.18 m ²				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	17,069.95 m ² (17,069.95 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	17,069.95 m ² (17,069.95 m ²)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	22室	8室	25室	0室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数						
	サステイナブルシステム科学研究科 ヘルスケアシステム科学専攻		19 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本		
		[うち外国書] 冊	[うち外国書] 種	電子ジャーナル [うち外国書] 種				点	点
	サステイナブルシステム 科学研究科 ヘルスケアシステム科学 専攻	67,000 [2,260] (66,616 [2,487])	2,514 [2,446] (2,652 [2,584])	2,435 [2,435] (2,575 [2,574])	2,010 (2,077)	850 (337)	111 (111)	大学全体	
	計	67,000 [2,260] (66,616 [2,487])	2,514 [2,446] (2,652 [2,584])	2,435 [2,435] (2,575 [2,574])	2,010 (2,077)	850 (337)	111 (111)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	909.83 m ²		118 席		80,000 冊				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体		
	960.00 m ²		—						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	研究科単位での算出不能なため、学部との合計 図書費には電子ジャーナルデータベースの整備費（運用コストを含む）を含む。
		教員1人当たり研究費等	400千円	400千円	図書購入費	15,002千円	15,002千円	15,002千円	
	共同研究費等	8,000千円	8,000千円	設備購入費	56,000千円	10,000千円	3,000千円		
	学生1人当たり 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		①918 ②1,059千円	636千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	※学生納付金は ①は市内学生 ②はその他学生	
学生納付金以外の維持方法の概要		大学運営費交付金、資産運用収入、雑収入 等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 名称	公立小松大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
生産システム科学部	4	80	-	320	-	1.03	1.06	-	平成30	-	
生産システム科学科	4	80	-	320	学士(工学)	1.03	1.06	-	平成30	石川県小松市土居原町10-10 石川県小松市西丁町ヌ1番地3	
保健医療学部	4	80	-	320	-	1.03	1.03	-	-	-	
看護学科	4	50	-	200	学士(看護学)	1.01	1.00	-	平成30	石川県小松市土居原町10-10 石川県小松市向本折町へ14番地1	
臨床工学科	4	30	-	120	学士(臨床工学)	1.07	1.10	-	平成30	同上	
国際文化交流学部	4	80	-	320	-	1.00	1.00	-	平成30	-	
国際文化交流学科	4	80	-	320	学士(国際文化)	1.00	1.00	-	平成30	石川県小松市土居原町10-10	
大学全体	4	240	-	960	-	1.02	1.03	-	平成30	-	

大学 名称	公立小松大学大学院						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	1	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
サステイナブルシステム科学研究科											
生産システム科学専攻(修士課程)	2	15	-	30	修士(工学)	1.06	1.06	-	令和4	石川県小松市西丁町ヌ1番地3	
ヘルスケアシステム科学専攻(修士課程)	2	3	-	6	修士(保健学)	1.33	1.33	-	令和4	石川県小松市向本折町へ14番地1	
グローバル文化学専攻(修士課程)	2	3	-	6	修士(国際文化)	1.00	1.00	-	令和4	石川県小松市土居原町10番地10	
大学院全体	2	21	-	42	-	1.09	1.09	-	令和4	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<サステイナブルシステム科学研究科 ヘルスケアシステム科学専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】		【令和4年度】	
専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専	李 鐘昊 (48) <令和4年4月> 博士(学術) IoT・AI概論 ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ メディカル・サイバネティクス特 論 ※ 修了研究	専	李 鐘昊 (48) <令和4年4月> 博士(学術) IoT・AI概論 ※ 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※ メディカル・サイバネティク ス特論 ※ 修了研究
専	岩橋 正國 (68) <令和4年4月> 博士(工学) 生体代行システム特論 ※	専	岩橋 正國 (68) <令和4年4月> 博士(工学) 生体代行システム特論 ※
専	山岡 哲二 (60) <令和5年4月> 博士(工学) 生体代行システム特論 ※ 修了研究	専	山岡 哲二 (59) <令和5年4月> 博士(工学) 生体代行システム特論 ※ 修了研究
専	内田 美保 (63) <令和4年4月> 博士(感染制御学) サステイナブル コミュニティ創造 特論 ※		
専	北浦 弘樹 (48) <令和4年4月> 博士(医学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 生体代行システム特論 ※ 修了研究	専	北浦 弘樹 (48) <令和4年4月> 博士(医学) 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※ 生体代行システム特論 ※ 修了研究
専	北岡 和代 (68) <令和4年4月> 博士(医学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ ヘルスケアシステム概論 ※ 修了研究	専	北岡 和代 (68) <令和4年4月> 博士(医学) 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※ ヘルスケアシステム概論 ※ 修了研究
専	小泉 由美 (63) <令和4年4月> 博士(医学) 高齢者包括ケアシステム特論 ※ 修了研究	専	小泉 由美 (63) <令和4年4月> 博士(医学) 高齢者包括ケアシステム特論 ※ 修了研究
専	高木 祐介 (38) <令和5年4月> 博士(健康科学) ヘルスケアシステム概論 ※ サステイナブル コミュニティ創造 特論 ※ 修了研究	専	高木 祐介 (37) <令和5年4月> 博士(健康科学) ヘルスケアシステム概論 ※ サステイナブル コミュニティ 創造特論 ※ 修了研究
専	徳田 真由美 (56) <令和4年4月> 博士(看護学) 高齢者包括ケアシステム特論 ※ 修了研究	専	徳田 真由美 (56) <令和4年4月> 博士(看護学) 高齢者包括ケアシステム特論 ※ 修了研究
専	仲田 浩規 (41) <令和4年4月> 博士(医学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ サステイナブル コミュニティ創造 特論 ※ 修了研究	専	仲田 浩規 (41) <令和4年4月> 博士(医学) 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※ サステイナブル コミュニティ 創造特論 ※ 修了研究
専	橋本 泰成 (38) <令和4年4月> 博士(工学) データ科学概論 ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ メディカル・サイバネティクス特 論 ※ 修了研究	専	橋本 泰成 (38) <令和4年4月> 博士(工学) データ科学概論 ※ 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※ メディカル・サイバネティク ス特論 ※ 修了研究
専	八賀 正司 (68) <令和4年4月> 学術博士 ヘルスバイオエンジニアリング特 論 ※	専	八賀 正司 (68) <令和4年4月> 学術博士 ヘルスバイオエンジニアリン グ特論 ※
専	山岡 積久 (53) <令和5年4月> 博士(医学) ヘルスバイオエンジニアリング特 論 ※ 修了研究	専	山岡 積久 (52) <令和5年4月> 博士(医学) ヘルスバイオエンジニアリン グ特論 ※ 修了研究
専	平山 順 (46) <令和4年4月> 博士(人間・環境学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ ヘルスケアシステム概論 ※ 修了研究	専	平山 順 (46) <令和4年4月> 博士(人間・環境学) 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※ ヘルスケアシステム概論 ※ 修了研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	松井 優子 (56) <令和4年4月> 博士(保健学)	専	教授	松井 優子 (56) <令和4年4月> 博士(保健学)
		ヘルスバイオエンジニアリング特論 ※ 修了研究			ヘルスバイオエンジニアリング特論 ※ 修了研究
専	教授	盛永 審一郎 (73) <令和4年4月> 文学修士	専	教授	盛永 審一郎 (73) <令和4年4月> 文学修士
		持続可能な社会の科学-SDGs Basic ※ サステナブル ライフ・エシックス特論			持続可能な社会の科学-SDGs Basic ※ サステナブル ライフ・エシックス特論
専	教授	山崎 松美 (46) <令和4年4月> 博士(保健学)	専	教授	山本 博 (72) <令和4年9月> 医学博士
		ヘルスケアシステム概論 ※			ヘルスケアシステム概論 ※
専	准教授	佐藤 大介 (42) <令和4年4月> 博士(看護学)			
		データ科学概論 ※ サステナブル コミュニティ創造特論 ※			
専	准教授	中田 明恵 (41) <令和4年4月> 博士(保健学)			
		高齢者包括ケアシステム特論 ※ 修了研究			
専	准教授	藤田 一寿 (43) <令和4年4月> 博士(工学)	専	准教授	藤田 一寿 (44) <令和4年4月> 博士(工学)
		IoT・AI概論 ※ 持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※ ヘルスバイオエンジニアリング特論 ※ 修了研究			IoT・AI概論 ※ 持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※ ヘルスバイオエンジニアリング特論 ※ 修了研究
専	准教授	山田 昭博 (38) <令和5年4月> 博士(医工学)	専	准教授	山田 昭博 (37) <令和5年4月> 博士(医工学)
		生体代行システム特論 ※ 修了研究			生体代行システム特論 ※ 修了研究
専	助教	上田 映美 (38) <令和4年4月> 博士(保健学)	専	助教	上田 映美 (38) <令和4年4月> 博士(保健学)
		ヘルスバイオエンジニアリング特論 ※			ヘルスバイオエンジニアリング特論 ※
兼任	教授	岩田 佳雄 (68) <令和4年4月> 工学博士	兼任	教授	岩田 佳雄 (68) <令和4年4月> 工学博士
		持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※			持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※
兼任	教授	上田 芳弘 (61) <令和4年4月> 博士(工学)	兼任	教授	上田 芳弘 (62) <令和4年4月> 博士(工学)
		データ科学概論 ※			データ科学概論 ※
兼任	教授	歌野原 陽一 (47) <令和4年4月> 博士(工学)	兼任	教授	歌野原 陽一 (47) <令和4年4月> 博士(工学)
		持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※			持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※
兼任	教授	香川 博之 (57) <令和4年4月> 博士(工学)	兼任	教授	香川 博之 (57) <令和4年4月> 博士(工学)
		持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※			持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※
兼任	教授	川端 信義 (69) <令和4年4月> 工学博士	兼任	教授	川端 信義 (69) <令和4年4月> 工学博士
		持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※ 次世代エネルギーシステム特論 ※			持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※ 次世代エネルギーシステム特論 ※
兼任	教授	木村 春彦 (70) <令和4年4月> 工学博士	兼任	教授	木村 春彦 (70) <令和4年4月> 工学博士
		データ科学概論 ※ アルゴリズム特論			データ科学概論 ※ アルゴリズム特論 ※
兼任	教授	酒井 忍 (58) <令和4年4月> 博士(工学)	兼任	教授	酒井 忍 (58) <令和4年4月> 博士(工学)
		持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※			持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※
兼任	教授	高山 純一 (67) <令和4年4月> 工学博士	兼任	教授	高山 純一 (67) <令和4年4月> 工学博士
		持続可能な社会の科学-SDGs Basic ※ 持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※ 修了研究			持続可能な社会の科学-SDGs Basic ※ 持続可能な社会への展望-SDGs Advanced ※ 修了研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	富澤 淳 (63) <令和4年4月> 博士(工学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※	兼任	教授	細川 晃 (65) <令和4年9月> 工学博士 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※
兼任	教授	山田 外史 (72) <令和4年4月> 博士(工学) IoT・AI概論 ※			
			兼任	教授	村山 立人 (60) <令和4年9月> 博士(理学) アルゴリズム特論※
兼任	准教授	池田 慎治 (49) <令和4年4月> 博士(工学) IoT・AI概論 ※	兼任	准教授	池田 慎治 (49) <令和4年4月> 博士(工学) IoT・AI概論 ※
兼任	准教授	梶原 祐輔 (36) <令和4年4月> 博士(工学) IoT・AI概論 ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 画像認識特論	兼任	准教授	梶原 祐輔 (36) <令和4年4月> 博士(工学) IoT・AI概論 ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 画像認識特論
兼任	准教授	稲谷 素洋 (43) <令和4年4月> 博士(理学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※	兼任	准教授	稲谷 素洋 (43) <令和4年4月> 博士(理学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※
兼任	准教授	史 金星 (41) <令和4年4月> 博士(工学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※	兼任	准教授	史 金星 (41) <令和4年4月> 博士(工学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※
兼任	教授	岡村 徹 (60) <令和4年4月> 博士(比較社会文化) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 言語文化特論A(英語文化圏) ※	兼任	教授	岡村 徹 (60) <令和4年4月> 博士(比較社会文化) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 言語文化特論A(英語文化圏) ※
兼任	教授	小原 文衛 (53) <令和4年4月> 博士(文学) コミュニケーション特論 ※ アカデミック・イングリッシュ ※ 言語文化特論A(英語文化圏) ※	兼任	教授	小原 文衛 (53) <令和4年4月> 博士(文学) コミュニケーション特論 ※ アカデミック・イングリッシュ ※ 言語文化特論A(英語文化圏) ※
兼任	教授	杓谷 茂樹 (59) <令和4年4月> 修士(文学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 多文化共生社会特論A(文化一般) ※ 地域資源学特論A(自然・文化・社会資源:理論) ※	兼任	教授	杓谷 茂樹 (59) <令和4年4月> 修士(文学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 多文化共生社会特論A(文化一般) ※ 地域資源学特論A(自然・文化・社会資源:理論) ※
兼任	教授	中村 誠一 (65) <令和5年4月> 修士(文化科学) 持続可能な社会の科学—SDGs Basic ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※	兼任	教授	中村 誠一 (64) <令和5年4月> 修士(文化科学) 持続可能な社会の科学—SDGs Basic ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※
兼任	教授	西村 聡 (67) <令和4年4月> 博士(文学) 地域資源学特論A(自然・文化・社会資源:理論) ※	兼任	教授	西村 聡 (67) <令和4年4月> 博士(文学) 地域資源学特論A(自然・文化・社会資源:理論) ※
兼任	教授	刘 迺华 (59) <令和4年4月> 文学修士 コミュニケーション特論 ※	兼任	教授	刘 迺华 (59) <令和4年4月> 文学修士 コミュニケーション特論 ※
兼任	准教授	朝倉 由希 (45) <令和4年4月> 博士(学術) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※	兼任	准教授	朝倉 由希 (45) <令和4年4月> 博士(学術) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※
兼任	准教授	一ノ瀬 忠之 (47) <令和4年4月> 博士(商学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※	兼任	准教授	一ノ瀬 忠之 (47) <令和4年4月> 博士(商学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※
兼任	准教授	木場 紗綾 (41) <令和4年4月> 博士(政治学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※	兼任	講師	西島 薫 (34) <令和4年6月> 博士(地域研究) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	准教授	木村 誠 (41) <令和4年4月> 博士(学術)	兼任	准教授	木村 誠 (42) <令和4年4月> 博士(学術)
		コミュニケーション特論 ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※			コミュニケーション特論 ※ 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※
兼任	准教授	清 剛治 (51) <令和4年4月> 博士(学術)	兼任	准教授	清 剛治 (51) <令和4年4月> 博士(学術)
		コミュニケーション特論 ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 多文化共生社会特論A(文化一般) ※ 地域資源学特論A(自然・文化・社会資源・理論) ※			コミュニケーション特論 ※ 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※ 多文化共生社会特論A(文化一 般) ※ 地域資源学特論A(自然・文化・社 会資源・理論) ※
兼任	准教授	島内 俊彦 (52) <令和4年4月> 博士(学術)	兼任	准教授	島内 俊彦 (52) <令和4年4月> 博士(学術)
		データ科学概論 ※ コミュニケーション特論 ※ アカデミック・イングリッシュ ※			データ科学概論 ※ コミュニケーション特論 ※ アカデミック・イングリッシュ ※
兼任	准教授	千葉 悠志 (36) <令和4年4月> 博士(地域研究)	兼任	准教授	千葉 悠志 (37) <令和4年4月> 博士(地域研究)
		持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※			持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※
兼任	准教授	中子(佐藤)富貴子 (54) <令和4年4月> 博士(創造都市)	兼任	准教授	中子(佐藤)富貴子 (54) <令和4年4月> 博士(創造都市)
		持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※			持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※
兼任	准教授	長辻(石黒)幸 (38) <令和4年4月> 博士(文学)	兼任	准教授	長辻(石黒)幸 (39) <令和4年4月> 博士(文学)
		アカデミック・イングリッシュ ※ 言語文化特論A(英語文化圏) ※			アカデミック・イングリッ シュ ※ 言語文化特論A(英語文化圏) ※
兼任	准教授	橋本(佐治)貴子 (45) <令和4年4月> 博士(文学)	兼任	准教授	橋本(佐治)貴子 (45) <令和4年4月> 博士(文学)
		コミュニケーション特論 ※			コミュニケーション特論 ※
兼任	講師	木村 繁男 (71) <令和4年4月> Doctor of Philosophy, Mechanical Engineering (米國)	兼任	教授	木村 繁男 (71) <令和4年4月> Doctor of Philosophy, Mechanical Engineering (米國)
		次世代エネルギーシステム特論 ※			次世代エネルギーシステム特 論 ※
			兼任	講師	内田 美保 (63) <令和4年4月> 博士(建築制衡学)
					サステイナブル コミュニティ 創造特論 ※
			兼任	講師	佐藤 大介 (42) <令和4年4月> 博士(看護学)
					データ科学概論 ※ サステイナブル コミュニティ 創造特論 ※
			兼任	准教授	山下 幸三 (39) <令和4年4月> 博士(理学)
					IoT・AI概論 ※

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 - ・ その上で、**履任時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和4年度】

(記入例)

- ・専任教員の内田美保教授就任辞退。
- ・専任教員の山崎松美教授就任辞退。
- ・専任教員の佐藤大介准教授就任辞退。
- ・専任教員の中田明恵准教授就任辞退。
- ・兼任教員の富澤淳教授就任辞退。
- ・兼任教員の山田外史教授就任辞退。
- ・兼任教員の木場紗綾准教授就任辞退。
- ・専任教員として山本博教授を追加、担当科目として専攻専門科目「ヘルスケアシステム概論」を追加。(令和4年6月教員審査済)
- ・専任教員として平山順教授を追加、担当科目として専攻専門科目「ヘルスケアシステム概論」を追加。(令和4年6月教員審査済)
- ・兼任教員として内田美保講師を追加、担当科目として専攻専門科目「サステイナブル コミュニティ創造特論」を追加。
- ・兼任教員として佐藤大介講師を追加、担当科目として専門共通科目「データ科学概論」、専攻専門科目「サステイナブル コミュニティ創造特論」を追加。
- ・兼任教員として山下幸三准教授を追加、担当科目として専門共通科目「IoT・AI概論」を追加。
- ・兼任教員として細川晃教授を追加、担当科目として専門応用科目「持続可能な社会への展望-SDGs Advanced」を追加。(令和4年6月教員審査済)
- ・兼任教員として西島薫講師を追加、担当科目として専門応用科目「持続可能な社会への展望-SDGs Advanced」を追加。(令和4年4月教員審査済)

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
6 名	4 名	6 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計（A）	助手（A'）	教授	准教授	講師	助教	計（B）	助手（B'）
15	4	0	1	20	0	13	1	0	1	15	0
(14)	(3)	(0)	(1)	(18)	(0)						
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		
15	0	5				10	0	5			
(11)	(0)	(7)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計（C）	助手（C'）	教授	准教授	講師	助教	計（D）	助手（D'）
14	2	0	1	17	0	15	4	0	1	20	0
[△1]	[△2]	[0]	[0]	[△3]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		
14	0	3				15	0	5			
[△1]	[0]	[△2]				[0]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、既に設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	5 名	3 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) -④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{17}{20} = \boxed{85} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{5}{15} = \boxed{33.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	教授	内田 美保	R4.3	選択	サステイナブル コミュニティ創造特論	②	R4.3自己都合のため就任辞退（4）			
2	教授	山崎 松美	R4.3	必修	ヘルスケアシステム概論	①	R4.3自己都合のため就任辞退（4）			
3	准教授	佐藤 大介	R4.3	選択	データ科学概論	②	R4.3自己都合のため就任辞退（4）			
				選択	サステイナブル コミュニティ創造特論	②				
合計（D）						後任補充状況の集計（E）				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
3	人	必修	1	科目	必修	1	科目	必修	0	科目
		選択	3	科目	選択	0	科目	選択	3	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	4	科目	計	1	科目	計	3	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	准教授	中田 明恵	R4.9	選択	高齢者包括ケアシステム特論	①	R4.9自己都合のため辞任（4）			
				必修	修了研究	①				
合計（F）						後任補充状況の集計（G）				
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
1	人	必修	1	科目	必修	1	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	2	科目	計	2	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計(D) + (F)			後任補充状況の集計(E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
4 人	必修	2 科目	必修	2 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	4 科目	選択	1 科目	選択	3 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	6 科目	計	3 科目	計	3 科目	計	0 科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - \textcircled{3} \text{合計(D)+(F)}}{(2) - \textcircled{2} \text{設置時の計画(A)}} = \frac{4}{20} = \boxed{20} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員辞任による科目担当者変更については、授業担当能力を満たしている兼任教員で対応出来ており、学生の履修等への影響は無いものとする。学生への周知については時間割および専攻ガイダンスによって行った。後任については、候補者選を速やかに行う予定である。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和4年)	1. 設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の理論及び応用を教授研究するという大学院の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	<p>・ 理事長・学長・研究科長のトップマネジメントのもとに、設置計画を確実に履行し、的確な大学院運営を行っている。</p> <p>・ 既設の全学委員会である教育企画委員会、研究・社会連携委員会と連携しつつ、大学院研究科委員会の指揮下に充実した教育研究活動の推進とその水準の向上に努めている。</p> <p>(令和4年度)</p>	<p>・ 大学の各組織が行う活動が設置の趣旨・目的を踏まえた取り組みとなっているかを、学長を室長とする評価室によって、半期ごとに実施する進捗管理で検証し、計画を確実に履行していく。</p> <p>(令和4年度)</p>
認 可 時 (令和4年)	2. 本研究科で実施可能な分野横断的研究に係る理解が十分に得られるよう、分野横断の具体例やそれに応じた履修モデル等を交えながら、入学志願者等に対しあらかじめ周知するとともに、入学後のオリエンテーションやガイダンスにおいても学生に対して具体的に説明すること。また、他専攻の教育アドバイザー教員が専門分野を超えた課題研究に関してどのような指導・助言を行うのかについても、併せて具体的に説明すること。さらに、設置の趣旨等に係る説明に「修了研究では・・・専門分野を超えた共同研究を促す。」とあるが、「修了研究」のシラバスを見る限り、必ずしも全ての研究テーマにおいて共同研究が想定されているとは見受けられないため、前述の周知及び説明に当たっては、分野横断が想定される研究テーマについて誤解が生じないように正確に説明すること。	<p>・ 志願者には分野横断的研究の主旨と重要性を入学説明会等で事前に説明している。また、研究科オリエンテーションと各専攻毎のガイダンスにおいても再度説明するとともに、主任指導教員、副指導教員、およびアドバイザー教員の具体的役割等についても詳しく説明している。</p> <p>・ 修了研究における共同研究については、それぞれの研究テーマに則して相応しいものとそうでないもの、さらに共同研究が全般にわたるのかあるいは部分的とするのかを整理して説明している。</p> <p>(令和4年度)</p>	<p>・ 各学生の履修状況及び修了研究の進捗状況を踏まえて、主任指導教員、副指導教員及びアドバイザー教員が適切な助言を行っている。</p> <p>(令和4年度)</p>

<p>認可時 (令和4年)</p>	<p>3. 分野横断的専攻専門科目については、他専攻が開講する科目の履修を通じて、学生自らの専攻及び分野を越えた専門的な内容を学ぶものであることから、他専攻の学生が当該科目の履修に当たって支障が生じないよう、学生に求める事前学修や大学が講じる学修支援の内容等をシラバスに明記した上で適切に実施すること。 また、学生が自らの研究内容にふさわしい分野横断的専攻専門科目を選択することができるよう、オリエンテーションやガイダンスに加えて、指導教員等による綿密な履修指導に努めること。</p>	<p>遵守事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分野横断的専攻専門科目のシラバスには、他専攻の学生に対して事前の学修支援を行う旨明記している。 ・科目選択に当たっては当該学生の修了研究のテーマに相応しいか、主任指導教員、副指導教員、アドバイザー教員が協議して履修指導を行っている。 <p>(令和4年度)</p>	<p>履行中</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の理解度を随時検証し、事前の学習支援の方法・内容を改善していく。 <p>(令和4年度)</p>
<p>認可時 (令和4年)</p>	<p>4. 本研究科のカリキュラム・ポリシーにおいて、「ケーススタディ、フィールドワーク、インターシップなどのアプローチを修了研究に含め」ることとしているが、「修了研究」のシラバスを見る限り、必ずしも全ての研究テーマにおいて当該アプローチが含まれているとは見受けられないため、当該ポリシーと教育課程が整合していることが明確になるようシラバスの記載を適切に改めること。また、その実施に当たっては、あらかじめ大学として適切に学生をフォローする体制を整備するとともに、学修負担を考慮した上で、学生のニーズや研究テーマに応じ、実施時期や取組内容等について柔軟に対応すること。さらに、海外におけるフィールドワークも予定されており、相応の経済的な負担が懸念されることから、学生に対してあらかじめ適切に周知すること。なお、必要に応じて学生に対する経済的支援等の負担軽減策を講じることが望ましい。</p>	<p>遵守事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ケーススタディ、フィールドワーク、インターシップなど」を修了研究に含めることについては、カリキュラムポリシーと教育課程の整合性を図るため、シラバスを適切に改めた。また、その実施時期は学生の負担が偏重しないよう柔軟に設定する。 ・海外におけるフィールドワークについては、既に学部生に対して実施している経費支援制度を適用し、大学院学生の負担軽減を図る。 <p>(令和4年度)</p>	<p>履行中</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・修了研究に関連するインターシップ、ケーススタディ、フィールドワークの実施状況を調査し、研究テーマにおける当該アプローチの効果の評価し、実施方法・内容を改善していく。 <p>(令和4年度)</p>

<p>認可時 (令和4年)</p>	<p>5. 専門共通科目の「データ科学概論」及び「IoT・AI概論」について、その履修者が、当該科目に含まれる専門性の高い内容に対する十分な理解が得られるよう、必要に応じて本学学士課程の共通教育科目（「データ科学と社会」及び「情報処理基礎」）のオンデマンド教材を用いた予習に加えて、上記の専門共通科目で取り扱う専門的内容に応じた事前教育を適切に行い、当該科目の教育効果を確実に担保すること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・基礎となる情報系科目を履修していない学生には、本学学士課程の共通教育科目「データ科学と社会」及び「情報処理基礎」の担当教員が作成したオンデマンド教材を活用する等により事前教育を行ない、教育効果を担保している。</p> <p>(令和4年度)</p>	<p>履行中</p>	<p>・学生の理解度を随時検証し、学士課程の科目以外にも必要な事前教育を行っていく。</p> <p>(令和4年度)</p>
<p>認可時 (令和4年)</p>	<p>7. ニ以上の校地において教育を行うことから、学生及び教員の教育研究等に支障のないよう留意すること。また、学生の課外活動等にも配慮すること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・授業及び課外活動の時間に合わせてキャンパス間のシャトルバスを運行し、学生、教員の移動の負担を軽減している。</p> <p>・対面授業での受講が困難な履修生については、遠隔授業やオンデマンドによる補習を実施している。</p> <p>(令和4年度)</p>	<p>履行中</p>	<p>・引き続きシャトルバスの運行と遠隔及びオンデマンド形式による授業を実施していく。</p> <p>(令和4年度)</p>

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<サステイナブルシステム科学研究科 ヘルスケアシステム科学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>公立小松大学FD・SD推進委員会規則を制定（平成30年4月）</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>令和4年度未開催（開催予定）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>FD・SDの推進計画の策定、実施に関すること</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none">・ 財務システム研修会（令和4年5月開催予定）・ 公立大学の役割を学ぶ研修会・ 入試の全国的な動向や高校生の傾向を学ぶ研修会・ 研究倫理研修会（e-ラーニング）（JSPSで実施中）・ 新任事務職員のための研修会・ 大学コンソーシアム主催 オンライン研修会（令和4年度開催予定）・ 公立大学協会配信オンライン研修 「公立大学の研究活動促進に資するための勉強会（第1回）」（令和4年5月開催予定） 「公立大学の研究活動促進に資するための勉強会（第2回）」（令和4年6月開催予定）・ 公立大学職員セミナー（令和4年度開催予定）・ 公立大学法人会計セミナー（令和4年度開催予定）

b 実施方法

- ・ 開学後早急にFD・SD活動を開始するため、理事長・学長の指導のもと、各委員会等が研修会を企画した。全学における実施結果は、公立小松大学FD・SD推進委員会がとりまとめ総括した。大学院設置後も同様に実施する予定である。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 今後、実施内容に記載した研修会等の開催を予定している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 授業評価アンケートに基づき、学部学科単位で改善を実施（研究科においても実施予定）
- ・ プレゼンテーション能力やアクティブラーニング等の研修実施に向けた準備を実施中

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

未実施。令和4年度前期、後期開講科目終了時に、授業評価アンケートを実施を予定。

b 教員や学生への公開状況、方法等

専攻ごとに集計を行い研究科全体で内容を共有することを予定している。また、学生に対しては、学内掲示板等により結果を公表することを予定している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

地方独立行政法人法の規定も踏まえ、自己点検・評価委員会を設置し、理事長・学長のトップマネジメントによる法人・大学の運営が行われる仕組みを構築した。大学の各組織は、年に2度理事長・学長によるヒアリングを受けることとなっており、目標や方針の確認及び進捗状況の点検確認を行っている。

職員の資質や意識の更なる向上を図りつつ、設置の趣旨・目的に達成に向け組織全体が一丸となって取り組んでいく環境を引き続き整えていきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和4年6月 公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定（令和4年6月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・学内で検討を行っている。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

学校コード F117210105417

注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分：大学院の設置

注1

認可

注2

公立小松大学大学院

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

公立大学法人公立小松大学
令和4年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	学生課
職名・氏名	センモシヨクインカンダ アツシ 専門職員 神田 淳
電話番号	0761-41-6700
（夜間）	0761-41-6700
e-mail	gakusei@komatsu-u.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
 - 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
 - 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
 - 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
 - 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
 - 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
 - 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
 - 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

サステイナブルシステム科学研究科

＜グローバル文化学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	6
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	24
7. その他全般的事項	28

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

公立大学法人公立小松大学

(2) 大学名 公立小松大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒923-0921
石川県小松市土居原町10番地10
(〒923-8511)
(石川県小松市四丁町又1番地3)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イシダ ヒロト) 石田 寛人 (現職就任30年4月)		
学長	(ヤマモト ヒロシ) 山本 博 (現職就任30年4月)		
研究科長	(キムラ シゲオ) 木村 繁男 (現職就任4年4月)		
専攻長	(オカムラ トオル) 岡村 徹 (現職就任4年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)
令和4年度に報告する内容 → (4)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください(作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」を確認してください)。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和4年度までの5年間)ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
サステイナブルシステム科学研究科 グローバル文化学専攻 修士(国際文化学)	文学関係 社会学・社会学 福祉学関係	2 年	3 人	— 人	6 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」に「新規入学者を募集停止予定」を選択する

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— (—) [—]	3人 (—) [—]	— (—) [—]	1.00倍	—倍								
志願者数	— (—) [—]	3 (—) [—]	— (—) [—]										
受験者数	— (—) [—]	3 (—) [—]	— (—) [—]										
合格者数	— (—) [—]	3 (—) [—]	— (—) [—]										
B 入学者数	— (—) [—]	3 (—) [—]	— (—) [—]										
入学定員超過率 B/A	—		—		—		—		1.00				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出して下さい。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	対象年度 平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備考
	春季入学	その他の学期									
1年次	— [—] (—)	3 [—] (—)	— [—] (—)								
2年次	/		— [—] (—)								
3年次			/		/		— [—] (—)				
4年次	/						/		/		— [—] (—)
計			[—] (—)					[—] (—)			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
令和2年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
令和3年度	— 人	— 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
			令和3年度	— 人	— 人	
令和4年度	3 人	0 人	平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
			令和3年度	— 人	— 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(0人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{---}}{\text{---}} = \boxed{\text{\#VALUE!}} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{---}}{\text{---}} = \boxed{\text{\#VALUE!}} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{---}}{\text{---}} = \boxed{\text{\#VALUE!}} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{---}}{\text{---}} = \boxed{\text{\#VALUE!}} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<サステイナブルシステム科学研究科 グローカル文化学専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門共通科目	持続可能な社会の科学-SDGs Basic	1前	2			1						2
	データ科学概論	1前		2			1					4
	IoT・AI概論	1前		2								5
	コミュニケーション特論	1前		2		2	4					
	アカデミック・イングリッシュ	1前		2		1	2					
	小計(5科目)	-	2	8	0	3	5	0	0	0	0	11
専門応用科目	持続可能な社会への展望-SDGs Advanced	1後~2前	4			3	7					17
	小計(1科目)	-	4	0	0	3	7	0	0	0	0	17
専攻専門科目	多文化共生社会特論A(文化一般)	1前		2		1	1					
	多文化共生社会特論B(観光一般)	1後		2			2					
	地域資源学特論A(自然・文化・社会資源:理論)	1前		2		2	1					
	地域資源学特論B(自然・文化・社会資源:実践)	1後		2			2					
	グローバルスタディーズ特論A(アジア・インド太平洋)	1前		2			1				1	
	グローバルスタディーズ特論B(中東・旧ソ連)	1後		2			2					
	言語文化特論A(英語文化圏)	1前		2		2	1					
	言語文化特論B(漢字文化圏)	1後		2		2	1					
	小計(8科目)	-	0	16	0	5	8	0	0	0	0	0
分野横断的専攻専門科目	次世代エネルギーシステム特論	1後		2								3
	アルゴリズム特論	1後		2								1
	画像認識特論	1後		2								1
	サステイナブル ライフ・エシックス特論	1前		2								1
	ヘルスバイオエンジニアリング特論	1前		2								4
	サステイナブル コミュニティ創造特論	1後		2								4
	小計(6科目)	-	0	12	0	0	0	0	0	0	0	14
自由科目	エネルギー変換特論	1前			2							3
	先進材料・加工学特論	1後			2							2
	次世代生産システム特論	1前			2							3
	構造最適設計特論	1前			2							2
	構造ダイナミクス特論	1後			2							3
	計測制御システム特論	1前			2							2
	電気通信制御特論	1後			2							2
	ヘルスケアシステム概論	1前			2							4
	高齢者包括ケアシステム特論	1前			2							3
	生体代行システム特論	1後			2							3
	メディカル・サイバネティクス特論	1後			2							2
	小計(11科目)	-	0	0	22	0	0	0	0	0	0	25
修了科目	修了研究	1~2通	8			6	10					
	小計(1科目)	-	8	0	0	6	10	0	0	0	0	0
	合計(32科目)	-	14	36	22	6	10	0	0	0	0	38

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門共通科目	持続可能な社会の科学-SDGs Basic	1前	2			1						2
	データ科学概論	1前		2			1					4
	IoT・AI概論	1前		2								5
	コミュニケーション特論	1前		2		2	4					
	アカデミック・イングリッシュ	1前		2		1	2					
	小計(5科目)	-	2	8	0	3	5	0	0	0	0	11
専門応用科目	持続可能な社会への展望-SDGs Advanced	1後~2前	4			4	5	1				17
	小計(1科目)	-	4	0	0	4	5	1	0	0	0	17
専攻専門科目	多文化共生社会特論A(文化一般)	1前		2		1	1					
	多文化共生社会特論B(観光一般)	1後		2			1	1				
	地域資源学特論A(自然・文化・社会資源:理論)	1前		2		2	1					
	地域資源学特論B(自然・文化・社会資源:実践)	1後		2			1	1				
	グローバルスタディーズ特論A(アジア・インド太平洋)	1前		2						1		
	グローバルスタディーズ特論B(中東・旧ソ連)	1後		2			2					
	言語文化特論A(英語文化圏)	1前		2		2	1					
	言語文化特論B(漢字文化圏)	1後		2		2	1					
	小計(8科目)	-	0	16	0	6	6	1	0	0	0	0
分野横断的専攻専門科目	次世代エネルギーシステム特論	1後		2								3
	アルゴリズム特論	1後		2								2
	画像認識特論	1後		2								1
	サステイナブル ライフ・エシックス特論	1前		2								1
	ヘルスバイオエンジニアリング特論	1前		2								4
	サステイナブル コミュニティ創造特論	1後		2								4
	小計(6科目)	-	0	12	0	0	0	0	0	0	0	15
自由科目	エネルギー変換特論	1前			2							3
	先進材料・加工学特論	1後			2							2
	次世代生産システム特論	1前			2							3
	構造最適設計特論	1前			2							2
	構造ダイナミクス特論	1後			2							3
	計測制御システム特論	1前			2							2
	電気通信制御特論	1後			2							2
	ヘルスケアシステム概論	1前			2							4
	高齢者包括ケアシステム特論(未開講)	1前			2							2
	生体代行システム特論	1後			2							3
	メディカル・サイバネティクス特論	1後			2							2
	小計(9科目)	-	0	0	22	0	0	0	0	0	0	24
修了科目	修了研究	1~2通	8			7	8	1				
	小計(1科目)	-	8	0	0	7	8	1	0	0	0	0
	合計(32科目)	-	14	36	22	7	8	1	0	0	0	37

卒業要件及び履修方法

専門共通科目6単位以上(必修科目2単位、選択科目4単位以上)、専攻専門科目10単位以上、専門応用科目4単位、分野横断的専攻専門科目4単位以上、修了科目8単位の計32単位以上とする。
 「データ科学概論」または「IoT・AI概論」から1科目、「コミュニケーション特論」または「アカデミック・イングリッシュ」から1科目の単位取得を必要とする。
 専攻専門科目は、自専攻専門科目10単位以上と他の2専攻が開講する分野横断的専攻専門科目群から、それぞれ1科目ずつ4単位以上の履修を選択必修とする。
 なお、修了科目については、研究指導を受けた上で、修士論文を作成し、論文審査に合格することにより単位を認定する。
 学生が選択する研究課題によっては、以下の科目を自由科目として履修することができる。「エネルギー変換特論」、「先進材料・加工学特論」、「次世代生産システム特論」、「構造最適設計特論」、「構造ダイナミクス特論」、「計測制御システム特論」、「電気通信制御特論」、「ヘルスケアシステム概論」、「高齢者包括ケアシステム特論」、「生体代行システム特論」、「メディカル・サイバネティクス特論」

卒業要件及び履修方法

専門共通科目6単位以上(必修科目2単位、選択科目4単位以上)、専攻専門科目10単位以上、専門応用科目4単位、分野横断的専攻専門科目4単位以上、修了科目8単位の計32単位以上とする。
 「データ科学概論」または「IoT・AI概論」から1科目、「コミュニケーション特論」または「アカデミック・イングリッシュ」から1科目の単位取得を必要とする。
 専攻専門科目は、自専攻専門科目10単位以上と他の2専攻が開講する分野横断的専攻専門科目群から、それぞれ1科目ずつ4単位以上の履修を選択必修とする。
 なお、修了科目については、研究指導を受けた上で、修士論文を作成し、論文審査に合格することにより単位を認定する。
 学生が選択する研究課題によっては、以下の科目を自由科目として履修することができる。「エネルギー変換特論」、「先進材料・加工学特論」、「次世代生産システム特論」、「構造最適設計特論」、「構造ダイナミクス特論」、「計測制御システム特論」、「電気通信制御特論」、「ヘルスケアシステム概論」、「高齢者包括ケアシステム特論」、「生体代行システム特論」、「メディカル・サイバネティクス特論」

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・専任教員の木場紗綾准教授の就任辞退および中子富貴子准教授の昇任、さらに専任教員の西島薫講師の就任に伴い専門応用科目「持続可能な社会への展望-SDGs Advanced」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授4」に、「准教授7」から「准教授5」に、「講師0」から「講師1」に変更。
- ・専任教員の中子富貴子准教授の昇任に伴い、専攻専門科目「多文化共生社会特論B（観光一般）」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に、「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・専任教員の中子富貴子准教授の昇任に伴い、専攻専門科目「地域資源学特論B（自然・文化・社会資源：実践）」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に、「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・専任教員の木場紗綾准教授の就任辞退と専任教員の西島薫講師の就任に伴い専攻専門科目「グローバルスタディーズ特論A（アジア・インド太平洋）」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に、「講師0」から「講師1」に変更。
- ・兼任教員の村山立人教授の就任に伴い、分野横断的専攻専門科目「アルゴリズム特論」の兼任・兼任教員の配置を「1」から「2」に変更。
- ・兼任教員の中田明恵准教授の辞任に伴い、自由科目「高齢者包括ケアシステム特論」の兼任・兼任教員の配置を「3」から「2」に変更。
- ・専任教員の木場紗綾准教授の就任辞退および中子富貴子准教授の昇任、さらに専任教員の西島薫講師の就任に伴い、修了科目「修了研究」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授7」に、「准教授10」から「准教授8」に、「講師0」から「講師1」に変更。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
3 科目	18 科目	11 科目	32 科目	3 科目 []	18 科目 []	11 科目 []	32 科目 []	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{32} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
	校舎敷地	22,938.90 m ²	0 m ²	0 m ²	22,938.90 m ²	校地 末広キャンパス 借用面積：3,676m ² 借用期間：25年			
	運動場用地	14,271.00 m ²	0 m ²	0 m ²	14,271.00 m ²				
	小 計	37,209.90 m ²	0 m ²	0 m ²	37,209.90 m ²	校舎 末広キャンパス 借用面積：930m ² 借用期間：25年 中央キャンパス 借用面積：4,030m ² 借用期間：25年 小松市ビジネス創造プラ ザ 借用面積：164m ² 借用期間：1年毎に契 約更新を行う			
	そ の 他	7,951.28 m ²	0 m ²	0 m ²	7,951.28 m ²				
	合 計	45,161.18 m ²	0 m ²	0 m ²	45,161.18 m ²				
(2) 校 舎	専 用	17,069.95 m ² (17,069.95 m ²)	共 用 (0 m ²)	共用する他の 学校等の専用 (0 m ²)	計 (17,069.95 m ²)				
	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
(3) 教 室 等	22室	8室	25室	0室 (補助職員 0人)	0室 (補助職員 0人)	大学全体			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	サステイナブルシステム科学研究科 グローバル文化学専攻			16 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体	
		冊	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕					
	サステイナブルシステム 科学研究科 グローバル文化学専攻	67,000 [2,260] (66,616 [2,487])	2,514 [2,446] (2,652 [2,584])	2,435 [2,435] (2,575 [2,574])	2,010 (2,077)	850 (337)	111 (111)		
	計	67,000 [2,260] (66,616 [2,487])	2,514 [2,446] (2,652 [2,584])	2,435 [2,435] (2,575 [2,574])	2,010 (2,077)	850 (337)	111 (111)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	909.83 m ²		118 席		80,000 冊				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体		
	960.00 m ²		—						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	研究科単位での算出不能なため、学部との合計 図書費には電子ジャーナルデータベースの整備費（運用コストを含む）を含む。
		教員1人当たり研究費等	300千円	300千円	図書購入費	15,002千円	15,002千円	15,002千円	
	共同研究費等	8,000千円	8,000千円	設備購入費	56,000千円	10,000千円	3,000千円		
	学生1人当たり 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		①868 ②1,009千円	586千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	※学生納付金は ①は市内学生 ②はその他学生	
学生納付金以外の維持方法の概要		大学運営費交付金、資産運用収入、雑収入 等							

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(4)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 名 称	公立小松大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	0	備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
生産システム科学部	4	80	-	320	-	1.03	1.06	-	平成30	-	
生産システム科学科	4	80	-	320	学士(工学)	1.03	1.06	-	平成30	石川県小松市土居原町10-10 石川県小松市西丁町ス1番地3	
保健医療学部	4	80	-	320	-	1.03	1.03	-	-	-	
看護学科	4	50	-	200	学士(看護学)	1.01	1.00	-	平成30	石川県小松市土居原町10-10 石川県小松市向本折町へ14番地1	
臨床工学科	4	30	-	120	学士(臨床工学)	1.07	1.10	-	平成30	同上	
国際文化交流学部	4	80	-	320	-	1.00	1.00	-	平成30	-	
国際文化交流学科	4	80	-	320	学士(国際文化)	1.00	1.00	-	平成30	石川県小松市土居原町10-10	
大学全体	4	240	-	960	-	1.02	1.03	-	平成30	-	

大学 名 称	公立小松大学大学院						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科数	1	備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
サステイナブルシステム科学研究科											
生産システム科学専攻(修士課程)	2	15	-	30	修士(工学)	1.06	1.06	-	令和4	石川県小松市西丁町ス1番地3	
ヘルスケアシステム科学専攻(修士課程)	2	3	-	6	修士(保健学)	1.33	1.33	-	令和4	石川県小松市向本折町へ14番地1	
グローバル文化化学専攻(修士課程)	2	3	-	6	修士(国際文化)	1.00	1.00	-	令和4	石川県小松市土居原町10番地10	
大学院全体	2	21	-	42	-	1.09	1.09	-	令和4	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
 ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<サステイナブルシステム科学研究科 グローカル化学専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】		【令和4年度】	
専任・兼任・兼任の別	職名	専任・兼任・兼任の別	職名
	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等		氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名		担当授業科目名
専	岡村 徹 (60) <令和4年4月> 博士(比較社会文化) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 言語文化特論A(英語文化圏) ※ 修了研究	専	岡村 徹 (60) <令和4年4月> 博士(比較社会文化) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 言語文化特論A(英語文化圏) ※ 修了研究
専	小原 文衛 (53) <令和4年4月> 博士(文学) コミュニケーション特論 ※ アカデミック・イングリッシュ ※ 言語文化特論A(英語文化圏) ※ 修了研究	専	小原 文衛 (53) <令和4年4月> 博士(文学) コミュニケーション特論 ※ アカデミック・イングリッシュ ※ 言語文化特論A(英語文化圏) ※ 修了研究
専	杓谷 茂樹 (59) <令和4年4月> 修士(文学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 多文化共生社会特論A(文化一般) ※ 地域資源学特論A(自然・文化・社会資源:理論) ※ 修了研究	専	杓谷 茂樹 (59) <令和4年4月> 修士(文学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 多文化共生社会特論A(文化一般) ※ 地域資源学特論A(自然・文化・社会資源:理論) ※ 修了研究
専	中村 誠一 (65) <令和5年4月> 修士(文化科学) 持続可能な社会の科学—SDGs Basic ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 修了研究	専	中村 誠一 (64) <令和5年4月> 修士(文化科学) 持続可能な社会の科学—SDGs Basic ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 修了研究
専	西村 聡 (67) <令和4年4月> 博士(文学) 地域資源学特論A(自然・文化・社会資源:理論) ※ 言語文化特論B(漢字文化圏) ※ 修了研究	専	西村 聡 (67) <令和4年4月> 博士(文学) 地域資源学特論A(自然・文化・社会資源:理論) ※ 言語文化特論B(漢字文化圏) ※ 修了研究
専	刘 迺华 (59) <令和4年4月> 文学修士 コミュニケーション特論 ※ 言語文化特論B(漢字文化圏) ※ 修了研究	専	刘 迺华 (59) <令和4年4月> 文学修士 コミュニケーション特論 ※ 言語文化特論B(漢字文化圏) ※ 修了研究
専	朝倉 由希 (45) <令和4年4月> 博士(学術) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 多文化共生社会特論B(観光一般) ※ 地域資源学特論B(自然・文化・社会資源:実践) ※ 修了研究	専	朝倉 由希 (45) <令和4年4月> 博士(学術) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 多文化共生社会特論B(観光一般) ※ 地域資源学特論B(自然・文化・社会資源:実践) ※ 修了研究
専	一ノ瀬 忠之 (47) <令和4年4月> 博士(商学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ グローバルスタディーズ特論B(中東・旧ソ連) ※ 修了研究	専	一ノ瀬 忠之 (47) <令和4年4月> 博士(商学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ グローバルスタディーズ特論B(中東・旧ソ連) ※ 修了研究
専	木場 紗綾 (41) <令和4年4月> 博士(政治学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ グローバルスタディーズ特論A(アジア・インド太平洋) ※ 修了研究	専	西島 薫 (34) <令和4年6月> 博士(地域研究) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ グローバルスタディーズ特論A(アジア・インド太平洋) ※ 修了研究
専	木村 誠 (41) <令和4年4月> 博士(学術) コミュニケーション特論 ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 修了研究	専	木村 誠 (42) <令和4年4月> 博士(学術) コミュニケーション特論 ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 修了研究
専	清 剛治 (51) <令和4年4月> 博士(学術) コミュニケーション特論 ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 多文化共生社会特論A(文化一般) ※ 地域資源学特論A(自然・文化・社会資源:理論) ※ 修了研究	専	清 剛治 (51) <令和4年4月> 博士(学術) コミュニケーション特論 ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 多文化共生社会特論A(文化一般) ※ 地域資源学特論A(自然・文化・社会資源:理論) ※ 修了研究
専	島内 俊彦 (52) <令和4年4月> 博士(学術) データ科学概論 ※ コミュニケーション特論 ※ アカデミック・イングリッシュ ※ 修了研究	専	島内 俊彦 (52) <令和4年4月> 博士(学術) データ科学概論 ※ コミュニケーション特論 ※ アカデミック・イングリッシュ ※ 修了研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	千葉 悠志 (36) <令和4年4月> 博士(地域研究) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ グローバルスタディーズ特論B(中東・旧ソ連) ※ 修了研究	専	准教授	千葉 悠志 (37) <令和4年4月> 博士(地域研究) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ グローバルスタディーズ特論B(中東・旧ソ連) ※ 修了研究
専	准教授	中子(佐藤) 富貴子 (54) <令和4年4月> 博士(創造都市) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 多文化共生社会特論B(観光一般) ※ 地域資源学特論B(自然・文化・社会資源:実践) ※ 修了研究	専	准教授	中子(佐藤) 富貴子 (54) <令和4年4月> 博士(創造都市) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 多文化共生社会特論B(観光一般) ※ 地域資源学特論B(自然・文化・社会資源:実践) ※ 修了研究
専	准教授	長辻(石黒) 幸 (38) <令和4年4月> 博士(文学) アカデミック・イングリッシュ ※ 言語文化特論A(英語文化圏) ※ 修了研究	専	准教授	長辻(石黒) 幸 (39) <令和4年4月> 博士(文学) アカデミック・イングリッシュ ※ 言語文化特論A(英語文化圏) ※ 修了研究
専	准教授	橋本(佐治) 貴子 (45) <令和4年4月> 博士(文学) コミュニケーション特論 ※ 言語文化特論B(漢字文化圏) ※ 修了研究	専	准教授	橋本(佐治) 貴子 (45) <令和4年4月> 博士(文学) コミュニケーション特論 ※ 言語文化特論B(漢字文化圏) ※ 修了研究
兼任	教授	岩田 佳雄 (68) <令和4年4月> 工学博士 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※	兼任	教授	岩田 佳雄 (68) <令和4年4月> 工学博士 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※
兼任	教授	上田 芳弘 (61) <令和4年4月> 博士(工学) データ科学概論 ※	兼任	教授	上田 芳弘 (62) <令和4年4月> 博士(工学) データ科学概論 ※
兼任	教授	歌野原 陽一 (47) <令和4年4月> 博士(工学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 次世代エネルギーシステム特論 ※	兼任	教授	歌野原 陽一 (47) <令和4年4月> 博士(工学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 次世代エネルギーシステム特論 ※
兼任	教授	香川 博之 (57) <令和4年4月> 博士(工学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※	兼任	教授	香川 博之 (57) <令和4年4月> 博士(工学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※
兼任	教授	川端 信義 (69) <令和4年4月> 工学博士 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 次世代エネルギーシステム特論 ※	兼任	教授	川端 信義 (69) <令和4年4月> 工学博士 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 次世代エネルギーシステム特論 ※
兼任	教授	木村 春彦 (70) <令和4年4月> 工学博士 データ科学概論 ※ アルゴリズム特論	兼任	教授	木村 春彦 (70) <令和4年4月> 工学博士 データ科学概論 ※ アルゴリズム特論 ※
兼任	教授	酒井 忍 (58) <令和4年4月> 博士(工学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※	兼任	教授	酒井 忍 (58) <令和4年4月> 博士(工学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※
兼任	教授	高山 純一 (67) <令和4年4月> 工学博士 持続可能な社会の科学—SDGs Basic ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※	兼任	教授	高山 純一 (67) <令和4年4月> 工学博士 持続可能な社会の科学—SDGs Basic ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※
兼任	教授	富澤 淳 (60) <令和4年4月> 博士(工学) 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※	兼任	教授	細川 晃 (65) <令和4年9月> 工学博士 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※
兼任	教授	山田 外史 (72) <令和4年4月> 博士(工学) IoT・AI概論 ※			
			兼任	教授	村山 立人 (50) <令和4年9月> 博士(理学) アルゴリズム特論 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	准教授	池田 慎治 (49) <令和4年4月> 博士(工学)	兼任	准教授	池田 慎治 (49) <令和4年4月> 博士(工学)
		IoT・AI概論 ※			IoT・AI概論 ※
兼任	准教授	梶原 祐輔 (36) <令和4年4月> 博士(工学)	兼任	准教授	梶原 祐輔 (36) <令和4年4月> 博士(工学)
		IoT・AI概論 ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ 画像認識特論			IoT・AI概論 ※ 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※ 画像認識特論
兼任	准教授	粕谷 素洋 (43) <令和4年4月> 博士(理学)	兼任	准教授	粕谷 素洋 (43) <令和4年4月> 博士(理学)
		持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※			持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※
兼任	准教授	史 金星 (41) <令和4年4月> 博士(工学)	兼任	准教授	史 金星 (41) <令和4年4月> 博士(工学)
		持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※			持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※
兼任	教授	李 鍾昊 (48) <令和4年4月> 博士(学術)	兼任	教授	李 鍾昊 (48) <令和4年4月> 博士(学術)
		IoT・AI概論 ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※			IoT・AI概論 ※ 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※
兼任	教授	内田 美保 (63) <令和4年4月> 博士(感染制御学)			
		サステイナブル コミュニティ創造 特論 ※			
兼任	教授	北浦 弘樹 (48) <令和4年4月> 博士(医学)	兼任	教授	北浦 弘樹 (48) <令和4年4月> 博士(医学)
		持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※			持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※
兼任	教授	北岡 和代 (68) <令和4年4月> 博士(医学)	兼任	教授	北岡 和代 (68) <令和4年4月> 博士(医学)
		持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※			持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※
兼任	教授	高木 祐介 (38) <令和5年4月> 博士(健康科学)	兼任	教授	高木 祐介 (37) <令和5年4月> 博士(健康科学)
		サステイナブル コミュニティ創造 特論 ※			サステイナブル コミュニティ 創造特論 ※
兼任	教授	仲田 浩規 (41) <令和4年4月> 博士(医学)	兼任	教授	仲田 浩規 (41) <令和4年4月> 博士(医学)
		持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ サステイナブル コミュニティ創造 特論 ※			持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※ サステイナブル コミュニティ 創造特論 ※
兼任	教授	橋本 泰成 (38) <令和4年4月> 博士(工学)	兼任	教授	橋本 泰成 (38) <令和4年4月> 博士(工学)
		データ科学概論 ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※			データ科学概論 ※ 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※
兼任	教授	八賀 正司 (68) <令和4年4月> 学術博士	兼任	教授	八賀 正司 (68) <令和4年4月> 学術博士
		ヘルスバイオエンジニアリング特 論 ※			ヘルスバイオエンジニアリン グ特論 ※
兼任	教授	山岡 積久 (53) <令和5年4月> 博士(医学)	兼任	教授	山岡 積久 (52) <令和5年4月> 博士(医学)
		ヘルスバイオエンジニアリング特 論 ※			ヘルスバイオエンジニアリン グ特論 ※
兼任	教授	平山 順 (46) <令和4年4月> 博士(人間・環境学)	兼任	教授	平山 順 (46) <令和4年4月> 博士(人間・環境学)
		持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※			持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※
兼任	教授	松井 優子 (56) <令和4年4月> 博士(保健学)	兼任	教授	松井 優子 (56) <令和4年4月> 博士(保健学)
		ヘルスバイオエンジニアリング特 論 ※			ヘルスバイオエンジニアリン グ特論 ※
兼任	教授	盛永 審一郎 (73) <令和4年4月> 文学修士	兼任	教授	盛永 審一郎 (73) <令和4年4月> 文学修士
		持続可能な社会の科学—SDGs Basic ※ サステイナブル ライフ・エシク ス特論			持続可能な社会の科学—SDGs Basic ※ サステイナブル ライフ・エ シックス特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	准教授	佐藤 大介 (42) <令和4年4月> 博士(看護学)			
		データ科学理論 ※ サステイナブル コミュニティ創造 特論 ※			
兼任	准教授	藤田 一寿 (43) <令和4年4月> 博士(工学)	兼任	准教授	藤田 一寿 (44) <令和4年4月> 博士(工学)
		IoT・AI概論 ※ 持続可能な社会への展望—SDGs Advanced ※ ヘルスバイオエンジニアリング特 論 ※			IoT・AI概論 ※ 持続可能な社会への展望— SDGs Advanced ※ ヘルスバイオエンジニアリン グ特論 ※
兼任	助教	上田 映美 (38) <令和4年4月> 博士(保健学)	兼任	助教	上田 映美 (38) <令和4年4月> 博士(保健学)
		ヘルスバイオエンジニアリング特 論 ※			ヘルスバイオエンジニアリン グ特論 ※
兼任	講師	木村 繁男 (71) <令和4年4月> Doctor of Philosophy, Mechanical Engineering (米国)	兼任	教授	木村 繁男 (71) <令和4年4月> Doctor of Philosophy, Mechanical Engineering (米国)
		次世代エネルギーシステム特論 ※			次世代エネルギーシステム特 論 ※
			兼任	准教授	山下 幸三 (38) <令和4年4月> 博士(理学)
					IoT・AI概論 ※
			兼任	講師	内田 美保 (63) <令和4年4月> 博士(臨床心理学)
					サステイナブル コミュニティ 創造特論 ※
			兼任	講師	佐藤 大介 (42) <令和4年4月> 博士(看護学)
					データ科学理論 ※ サステイナブル コミュニティ 創造特論 ※

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和4年度】

- ・専任教員の木場紗綾准教授就任辞退。
- ・兼任教員の富澤淳教授就任辞退。
- ・兼任教員の山田外史教授就任辞退。
- ・兼任教員の内田美保教授就任辞退。
- ・兼任教員の佐藤大介准教授就任辞退。
- ・専任教員として西島薫講師を追加し、担当科目として専門応用科目「持続可能な社会への展望-SDGs Advanced」、専攻専門科目「グローバルスタディーズ特論A（アジア・インド太平洋）」を追加。令和4年度第1回AC教員審査に提出（令和4年4月教員審査済）。
- ・専任教員の中子富貴子准教授の職位を教授に変更。令和4年度第2回AC教員審査に提出（令和4年6月教員審査済）。
- ・兼任教員として山下幸三准教授を追加し、担当科目として専門共通科目「IoT・AI概論」を追加。
- ・兼任教員として細川晃教授を追加し、担当科目として専門応用科目「持続可能な社会への展望-SDGs Advanced」を追加。令和4年度第2回AC教員審査に提出（令和4年6月教員審査済）。
- ・兼任教員として内田美保講師を追加し、担当科目として分野横断的専攻専門科目「サステイナブル コミュニティ創造特論」を追加。
- ・兼任教員として佐藤大介講師を追加し、担当科目として専門共通科目「データ科学概論」、分野横断的専攻専門科目「サステイナブル コミュニティ創造特論」を追加。

- (注)
- ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
3 名	2 名	2 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計（A）	助手（A'）	教授	准教授	講師	助教	計（B）	助手（B'）
6	10	0	0	16	0	6	8	1	0	15	0
(5)	(10)	(0)	(0)	(15)	(0)						
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		
16	0	0				15	0	0			
(15)	(0)	(0)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計（C）	助手（C'）	教授	准教授	講師	助教	計（D）	助手（D'）
7	8	1	0	16	0	6	10	0	0	16	0
[1]	[△2]	[1]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		
16	0	0				16	0	0			
[0]	[0]	[0]				[0]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、既に設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	1 名	2 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) -④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{16}{16} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{1}{15} = \boxed{6.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	准教授	木場 紗綾	R4.3	必修	持続可能な社会への展望—SDGs Advanced	①	R4.3自己都合のため就任辞退（4）			
				選択	グローバルスタディーズ特選（アジア・インド太平洋）	①				
				必修	修了研究	①				
合計（D）			後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
1	人	必修	2	科目	必修	2	科目	必修	0	科目
		選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	3	科目	計	3	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計（F）			後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計(D) + (F)			後任補充状況の集計(E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a) + (b) + (c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
1 人	必修	2 科目	必修	2 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	1 科目	選択	1 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	3 科目	計	3 科目	計	0 科目	計	0 科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{1}{16} = \boxed{6.25} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし				
合計			後任補充状況の集計			
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0 人	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼任教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員就任辞退による科目担当者変更については、授業担当能力を満たしている兼任教員で対応出来ており、学生の履修等への影響は無いものとする。学生への周知については時間割および専攻ガイダンスによって行った。後任については、候補者選を速やかに行っており、令和4年度のAC教員審査に申請中である。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和4年)	1. 設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、学術の理論及び応用を教授研究するという大学院の目的に照らし、開設時から充実した教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。	<p>・ 理事長・学長・研究科長のトップマネジメントのもとに、設置計画を確実に履行し、的確な大学院運営を行っている。</p> <p>・ 既設の全学委員会である教育企画委員会、研究・社会連携委員会と連携しつつ、大学院研究科委員会の指揮下に充実した教育研究活動の推進とその水準の向上に努めている。</p> <p>(令和4年度)</p>	<p>・ 大学の各組織が行う活動が設置の趣旨・目的を踏まえた取り組みとなっているかを、学長を室長とする評価室によって、半期ごとに実施する進捗管理で検証し、計画を確実に履行していく。</p> <p>(令和4年度)</p>
認 可 時 (令和4年)	2. 本研究科で実施可能な分野横断的研究に係る理解が十分に得られるよう、分野横断の具体例やそれに応じた履修モデル等を交えながら、入学志願者等に対しあらかじめ周知するとともに、入学後のオリエンテーションやガイダンスにおいても学生に対して具体的に説明すること。また、他専攻の教育アドバイザー教員が専門分野を超えた課題研究に関してどのような指導・助言を行うのかについても、併せて具体的に説明すること。さらに、設置の趣旨等に係る説明に「修了研究では・・・専門分野を超えた共同研究を促す。」とあるが、「修了研究」のシラバスを見る限り、必ずしも全ての研究テーマにおいて共同研究が想定されているとは見受けられないため、前述の周知及び説明に当たっては、分野横断が想定される研究テーマについて誤解が生じないように正確に説明すること。	<p>・ 志願者には分野横断的研究の主旨と重要性を入学説明会等で事前に説明している。また、研究科オリエンテーションと各専攻毎のガイダンスにおいても再度説明するとともに、主任指導教員、副指導教員、およびアドバイザー教員の具体的役割等についても詳しく説明している。</p> <p>・ 修了研究における共同研究については、それぞれの研究テーマに則して相応しいものとそうでないもの、さらに共同研究が全般にわたるのかあるいは部分的とするのかを整理して説明している。</p> <p>(令和4年度)</p>	<p>・ 各学生の履修状況及び修了研究の進捗状況を踏まえて、主任指導教員、副指導教員及びアドバイザー教員が適切な助言を行っている。</p> <p>(令和4年度)</p>

<p>認可時 (令和4年)</p>	<p>3. 分野横断的専攻専門科目については、他専攻が開講する科目の履修を通じて、学生自らの専攻及び分野を越えた専門的な内容を学ぶものであることから、他専攻の学生が当該科目の履修に当たって支障が生じないよう、学生に求める事前学修や大学が講じる学修支援の内容等をシラバスに明記した上で適切に実施すること。また、学生が自らの研究内容にふさわしい分野横断的専攻専門科目を選択することができるよう、オリエンテーションやガイダンスに加えて、指導教員等による綿密な履修指導に努めること。</p>	<p>遵守事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分野横断的専攻専門科目のシラバスには、他専攻の学生に対して事前の学修支援を行う旨明記している。 ・科目選択に当たっては当該学生の修了研究のテーマに相応しいか、主任指導教員、副指導教員、アドバイザー教員が協議して履修指導を行っている。 <p>(令和4年度)</p>	<p>履行中</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の理解度を随時検証し、事前の学習支援の方法・内容を改善していく。 <p>(令和4年度)</p>
<p>認可時 (令和4年)</p>	<p>4. 本研究科のカリキュラム・ポリシーにおいて、「ケーススタディ、フィールドワーク、インターシップなどのアプローチを修了研究に含め」ることとしているが、「修了研究」のシラバスを見る限り、必ずしも全ての研究テーマにおいて当該アプローチが含まれているとは見受けられないため、当該ポリシーと教育課程が整合していることが明確になるようシラバスの記載を適切に改めること。また、その実施に当たっては、あらかじめ大学として適切に学生をフォローする体制を整備するとともに、学修負担を考慮した上で、学生のニーズや研究テーマに応じ、実施時期や取組内容等について柔軟に対応すること。さらに、海外におけるフィールドワークも予定されており、相応の経済的な負担が懸念されることから、学生に対してあらかじめ適切に周知すること。なお、必要に応じて学生に対する経済的支援等の負担軽減策を講じることが望ましい。</p>	<p>遵守事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ケーススタディ、フィールドワーク、インターシップなど」を修了研究に含めることについては、カリキュラムポリシーと教育課程の整合性を図るため、シラバスを適切に改めた。また、その実施時期は学生の負担が偏重しないよう柔軟に設定する。 ・海外におけるフィールドワークについては、既に学部生に対して実施している経費支援制度を適用し、大学院学生の負担軽減を図る。 <p>(令和4年度)</p>	<p>履行中</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・修了研究に関連するインターシップ、ケーススタディ、フィールドワークの実施状況を調査し、研究テーマにおける当該アプローチの効果を評価し、実施方法・内容を改善していく。 <p>(令和4年度)</p>

<p>認可時 (令和4年)</p>	<p>5. 専門共通科目の「データ科学概論」及び「IoT・AI概論」について、その履修者が、当該科目に含まれる専門性の高い内容に対する十分な理解が得られるよう、必要に応じて本学学士課程の共通教育科目（「データ科学と社会」及び「情報処理基礎」）のオンデマンド教材を用いた予習に加えて、上記の専門共通科目で取り扱う専門的内容に応じた事前教育を適切に行い、当該科目の教育効果を確実に担保すること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・基礎となる情報系科目を履修していない学生には、本学学士課程の共通教育科目「データ科学と社会」及び「情報処理基礎」の担当教員が作成したオンデマンド教材を活用する等により事前教育を行ない、教育効果を担保している。</p> <p>(令和4年度)</p>	<p>履行中</p>	<p>・学生の理解度を随時検証し、学士課程の科目以外にも必要な事前教育を行っていく。</p> <p>(令和4年度)</p>
<p>認可時 (令和4年)</p>	<p>6. 専攻名に使用されているグローバル文化学の定義について、本研究科におけるグローバルの定義を前提としたものであることが明確となり、それらの関係性に対する学内外の理解が十分に得られるよう、適切に改めること。(サステイナブルシステム科学研究科グローバル文化学専攻(M))</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・「グローバル文化学」の定義は本研究科における「グローバルの定義」を前提としたものであることを明確に示し、広く周知するよう努める。また、それらの関係性についても理解が十分に得られるよう、周知するよう努める。</p> <p>(令和4年度)</p>	<p>履行中</p>	<p>・引き続き本学の「グローバル文化学」の定義を様々な媒体を用い広く周知していく予定である。また、それらの関係性についても理解が十分に得られるよう、周知していく予定である。</p> <p>(令和4年度)</p>

<p>認可時 (令和4年)</p>	<p>7. 二以上の校地において教育を行うことから、学生及び教員の教育研究等に支障のないよう留意すること。また、学生の課外活動等にも配慮すること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>・授業及び課外活動の時間に合わせてキャンパス間のシャトルバスを運行し、学生、教員の移動の負担を軽減している。</p> <p>・対面授業での受講が困難な履修生については、遠隔授業やオンデマンドによる補習を実施している。</p> <p>(令和4年度)</p>	<p>履行中</p>	<p>・引き続きシャトルバスの運行と遠隔及びオンデマンド形式による授業を実施していく。</p> <p>(令和4年度)</p>
-----------------------	---	-------------	--	------------	--

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<サステイナブルシステム科学研究科 グローカル文化学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 公立小松大学FD・SD推進委員会規則を制定（平成30年4月）</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 令和4年度未開催（開催予定）</p> <p>c 委員会の審議事項等 FD・SDの推進計画の策定、実施に関すること</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 財務システム研修会（令和4年5月開催予定） ・ 公立大学の役割を学ぶ研修会 ・ 入試の全国的な動向や高校生の傾向を学ぶ研修会 ・ 研究倫理研修会（e-ラーニング）（JSPSで実施中） ・ 新任事務職員のための研修会 ・ 大学コンソーシアム主催 オンライン研修会（令和4年度開催予定） ・ 公立大学協会配信オンライン研修 「公立大学の研究活動促進に資するための勉強会（第1回）」（令和4年5月開催予定） 「公立大学の研究活動促進に資するための勉強会（第2回）」（令和4年6月開催予定） ・ 公立大学職員セミナー（令和4年度開催予定） ・ 公立大学法人会計セミナー（令和4年度開催予定）
--

b 実施方法

- ・ 開学後早急にFD・SD活動を開始するため、理事長・学長の指導のもと、各委員会等が研修会を企画した。全学における実施結果は、公立小松大学FD・SD推進委員会がとりまとめ総括した。大学院設置後も同様に実施する予定である。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・ 今後、実施内容に記載した研修会等の開催を予定している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 授業評価アンケートに基づき、学部学科単位で改善を実施（研究科においても実施予定）
- ・ プレゼンテーション能力やアクティブラーニング等の研修実施に向けた準備を実施中

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

未実施。令和4年度前期、後期開講科目終了時に、授業評価アンケートを実施を予定。

b 教員や学生への公開状況、方法等

専攻ごとに集計を行い研究科全体で内容を共有することを予定している。また、学生に対しては、学内掲示板等により結果を公表することを予定している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

地方独立行政法人法の規定も踏まえ、自己点検・評価委員会を設置し、理事長・学長のトップマネジメントによる法人・大学の運営が行われる仕組みを構築した。大学の各組織は、年に2度理事長・学長によるヒアリングを受けることとなっており、目標や方針の確認及び進捗状況の点検確認を行っている。

職員の資質や意識の更なる向上を図りつつ、設置の趣旨・目的に達成に向け組織全体が一丸となって取り組んでいく環境を引き続き整えていきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・令和4年6月 公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定（令和4年6月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・学内で検討を行っている。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 [()]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。